

第9回ワークショップ配布資料

- ①第9回ワークショップ 次第
- ②資料ー1：第8回ワークショップで出された主な意見
- ③資料ー2：漁対協案・代替案・漁業支援策等の定性的な比較
- ④資料ー3：解決したい課題とその対策例および懸案事項

鎌倉地域の漁業と漁港にかかるワークショップ

第9回ワークショップ 次第

■ 日 時：平成24年7月28日（土） 10:00～12:00

■ 場 所：鎌倉市役所 講堂

■ 参加者

● 市民参加者：公募市民：19名

関係団体：19名 計：38名

● ファシリテータ：齋藤 潮氏（東京工業大学大学院

社会理工学研究科教授）

● 事務局：鎌倉市市民活動部産業振興課
（財）漁港漁場漁村技術研究所

■ プログラム

はじめに／資料確認等（5分）

第1部（30分）

① 第8回ワークショップの議事概要（5分）

資料－1

② 漁対協案と代替案の定性的な比較（25分）

資料－2

第2部（80分）

③ 検討テーマについて（20分）

④ 全体ワーキング（60分）

資料－3

机上踏査（写真）

現況把握（地図上） 他

終わりに（5分）

⑤ 次回のご案内

■ 配布資料

第9回ワークショップ 次 第

資料－1：第8回ワークショップで出された主な意見

資料－2：漁対協案・代替案の定性的な比較

資料－3：解決したい課題とその対策例および懸案事項

■ ワークショップの日程変更について

前回のワークショップにおいて、お知らせいたしました開催日程について、可能な限り議論の間隔を開けないようにするため、後半2回の日程を前倒しして以下のように変更したいと考えています。

なお、現地踏査については、各開催予定の中で参加者の要望に合わせて実施したいと考えておりますので、現時点で確定的な予定はありません。

開催予定（変更後）

(1) 第8回	6月30日（土）	終了
(2) 第9回	7月28日（土）	今回
(3) 第10回	8月25日（土）	追加変更
(4) 第11回	9月29日（土）	
(5) 第12回	10月13日（土）	追加変更
(6) 第13回	11月17日（土）	

※ 8月11日（土）、12月15日（土）は「変更中止」とします。

※上記のうち、1回を現地踏査に充てる予定です。

ワークショップの日程を変更することで、皆様にご迷惑をかける場合があることをお詫びするとともに、主旨をご理解の上、ご協力頂きたく、何卒よろしくお願いいたします。

以 上

第8回ワークショップで出された主な意見

第1部 今年度のワークショップのテーマの検討

【検討テーマに関するファシリテーターからの提案】

- ・ 昨年度からの課題として、昨年度と同じ議論を繰り返さないよう運営方法を工夫してほしいという意見や、より漁業現場の状況に基づいた具体的な検討を進めてほしいという意見があった。したがって、漁業活動を維持し安全性を高めるための具体的方法を検討してはどうかと思う。
- ・ 昨年度の代表的な論点を踏まえ、漁港整備について検討するグループ、既存の機能の強化による漁業支援を考えるグループの2つに分けて、具体的な検討を行ってはどうか。

【提案に関する意見】

- ・ ファシリテーターの意見に賛成。
- ・ 費用対効果分析を含む行政側の検討結果を示した上でそれをもとに議論を行う。
- ・ 昨年度の報告書で示している「代替案」の検討を進める。
「代替案」を基に、複数の案を同時並行的に検討していく。
- ・ 企画提案型の事業が漁港整備にも取り入れられる可能性を考慮し、提案募集のスペックとなるものが議論できるのではないか。

【話し合いを行うにあたっての意見】

- ・ 予算や税金の使い方、市の事業の優先順位等もこのWSで検討するのか、しないのか、一度決めた方が良い。
- ・ まず、行政が、今後の鎌倉の水産業の在り方や、施策の考え方を明確にするという根本的な問題を解決する必要がある。
- ・ 現在の漁業における具体的なニーズや目的があった上でその対策として漁港建設なりがあると思うため、その点をしっかりまとめる必要がある。
- ・ 方向性を定めすぎず、自由に、鎌倉にとっていいものを提案できるほうが良い。
- ・ 予算確保の見通しが全くつかない状況で検討をするのはおかしいのではないか。
- ・ 予算がついてからでは、執行までの時間がなく市民の意見反映がむずかしいため、今から検討しておいた方が良い。この部分は絶対ダメだというものを示しておく必要もあるだろう。
- ・ 予算の話はともかく、鎌倉にふさわしい漁港や理想とする浜の使い方について意見を整理しておく必要がある。

【費用対効果分析について】

- ・ 費用対効果について、施設詳細が定まらない状況であっても、概略の数値が出せるのではないか。
- ・ 費用について概算値を出す場合には振れ幅まで提示してほしい。

【現地踏査について】

- ・ 検討テーマが定まり、見学する点を明確にした段階で現地踏査を行った方が良い。

【その他】

- 民間の漁港を作ることはできないのか。
- 漁港建設に 5～10 年かかりその間の台風被害への対応がなんとかしのげるなら、そもそも漁港建設に関する検討をする必要があるのか疑問である。

など

鎌倉地域の漁業と漁港にかかるワークショップ

～第9回ワークショップ資料～

漁対協案、代替案、漁業支援策等の定性的な比較

平成24年7月28日

(修正版)

鎌倉市市民活動部産業振興課

漁対協案および代替案、昨年度に討議された漁業支援策等の定性的な比較一覧

評価項目	漁対協案／埋立式	代替案①／掘込式	代替案②／和賀江嶋	既存施設の機能・構造強化（例）	他港への拠点移行
概要	<ul style="list-style-type: none"> 坂ノ下地先で、埋立地と防波堤によって用地及び泊地を確保して新たな漁港とする。 現在、浜にある漁業機能の多くを新たな漁港に移行させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 都市計画公園区域として都市計画決定されている、鎌倉海浜公園（坂ノ下地区）整備事業計画地となっている土地の一部を掘り込んで泊地を確保して新たな漁港とする。 現在、浜にある漁業機能の多くを新たな漁港に移行させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 和賀江嶋を史跡的な復元をするとともに、そこでの漁港利用を両立させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 既存の漁業関連施設（浜小屋及び係留施設）の機能と構造を強化して、現状での問題解決（出入船時の安全、台風等被害の軽減など）を図る。 漁港建設を否定するものではないが、現時点で対策すべき課題の解決を図るものである。 	<ul style="list-style-type: none"> 近隣他港（腰越漁港、小坪漁港ほか）へ操業拠点を移行させて、現状での問題解決を図る。 ただし、近隣には全ての漁船や漁具、漁労スペースを受入可能な港がない。
地形等への影響	<ul style="list-style-type: none"> 波浪を遮蔽する範囲で、海浜地形に影響が生じる可能性が高い。 事前に影響範囲と対応策を検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 現在の緑地が失われる。 当該地は都市計画公園区域として都市計画決定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 波浪を遮蔽する範囲で、海浜地形に影響が生じる可能性が高い。 事前に影響範囲と対応策を検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 係留施設として既存船揚場（斜路式）の延伸を行った場合、自然海岸の面積が減少する。 	<ul style="list-style-type: none"> 移行先の拡張・機能強化をしない限り、一切の影響は無い。
海浜利用等への影響	<ul style="list-style-type: none"> 浜小屋等の機能が移行すれば、利用可能な海浜面積が増加する。 坂ノ下地先での海域利用（サーフィン等）に影響が生じる可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 浜小屋等の機能が移行すれば、利用可能な海浜面積が増加する。 	<ul style="list-style-type: none"> 和賀江嶋周辺の海浜・海域利用に影響が生じる可能性がある。 坂ノ下地区では、機能の移行によって、利用可能な海浜面積が増加する。 	<ul style="list-style-type: none"> 浜小屋は現況の利用状況が維持・継続されれば影響はない。 既存船揚場の延伸を行った場合は、一般の海浜利用を分断する可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 機能が移行すれば、利用可能な海浜面積が増加する。
自然環境等への影響	<ul style="list-style-type: none"> 埋立等により、岩礁（藻場）の一部が消失する。 現状の漁場には、ほとんど影響しない。 	<ul style="list-style-type: none"> 掘込式は港内の水質が悪化しやすく、外海との海水交換で周辺環境に影響を及ぼす可能性がある。 現状の漁場には、ほとんど影響しない。 	<ul style="list-style-type: none"> 埋立等により、岩礁（藻場）の一部が消失する。 	<ul style="list-style-type: none"> 浜小屋は現況の利用状況が維持・継続されれば、影響はない。 既存船揚場（斜路式）の延伸を行った場合は、自然海岸の面積が減少する。 	<ul style="list-style-type: none"> 移行先の拡張・機能強化をしない限り、影響しない。
景観・眺望への影響	<ul style="list-style-type: none"> 現在の護岸前面が港になることで、景観が大きく変化する。 背後市街地からの眺望を阻害する可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 緑地の景観が、漁港（泊地等）に変わる。 国道 134 号の一部を橋梁化する必要があるため、眺望を阻害する可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 和賀江嶋の歴史的景観に配慮する必要がある。和賀江嶋は、国指定の史跡であり、現状を変更することは事実上、不可能である。 	<ul style="list-style-type: none"> 浜小屋は現況の利用状況を維持・継続しながら構造強化した場合、例えば時化で浸水させないため、基礎の嵩上げ（高床式など）を行えば国道 134 号からの眺望や景観が変化する。 	<ul style="list-style-type: none"> 移行先の拡張・機能強化をしない限り、影響しない。
観光への影響	<ul style="list-style-type: none"> 稲村ヶ崎への散策経路であり、新しい観光スポットになり得る可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 稲村ヶ崎への散策経路であり、新しい観光スポットになり得る可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 世界遺産登録の構成資産の一つとしても位置づけられている。 上記同様、現状を変更することは事実上、不可能である。 	<ul style="list-style-type: none"> 浜小屋に集客的な施設を付加するなど、観光へのプラス要素を検討する余地がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 漁業利用がある港以外（マリーナなど）では、利用者との共存が困難となる可能性がある。）
交通への影響	<ul style="list-style-type: none"> 漁港へのアクセスは国道 134 号からとなる。 	<ul style="list-style-type: none"> 漁港へのアクセスは国道 134 号からとなる。 国道 134 号を橋梁化する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 和賀江嶋へのアクセスは、現状では狭い一般道のみとなる。 	<ul style="list-style-type: none"> 海岸への既存のアクセスを利用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 既存のアクセスを利用する。
主な工事	<ul style="list-style-type: none"> 防波堤、護岸、係船岸、埋立工事、港内道路等 維持浚渫、施設維持工事等 	<ul style="list-style-type: none"> 防波堤、泊地・航路（浚渫）、護岸、係船岸、港内道路及び国道 134 号関連工事 維持浚渫、施設維持工事等 	<ul style="list-style-type: none"> 防波堤、護岸、係船岸、埋立工事、港内道路等 維持浚渫、施設維持工事等 	<ul style="list-style-type: none"> 浜小屋の機能強化として高潮等で浸水させないため、基礎の嵩上げ（高床式など）を行う。 既存船揚場（斜路式）の延伸・改良 	<ul style="list-style-type: none"> 他港の拡張・機能強化を想定しないかぎり、建設費用は発生しない。
これまでの経緯	<ul style="list-style-type: none"> 現時点で、鎌倉地域の漁業が抱える課題の解決策として第 3 次漁対協より提案されている。 平成 23 年度 WS では「現時点での漁港建設には無理がある」との意見が出された。 	<ul style="list-style-type: none"> 漁港を建設するには都市計画の変更が必要になり、公園より漁港が重要である、という理解を得ることが難しい。 都市計画変更した場合、公園用地の代替地が必要となるが、適地がない。 国道 134 号の橋梁化にかかる財政的負担が必要となる。 第 2 次漁対協では、都市計画公園区域や建設費から除外された。 平成 23 年度 WS では、再検証が必要であるとの意見が出された。 	<ul style="list-style-type: none"> 国指定史跡であり、世界遺産登録を見据えた市の保存管理計画では現状を保存し、維持に努めることとしており、本案による解決は、事実上不可能である。 平成 23 年度 WS では、和賀江嶋の施設の復興及び漁業利用の検討について意見が出された。 	<ul style="list-style-type: none"> 『漁港に依らない課題の解決』として、今後も検討を続ける余地がある。ただし、課題の抜本的解決は困難である。 平成 23 年度 WS では、台風などによる被害が起きないよう、現状の就業環境の改善についてできることから検討すべきとの意見が出された。 	<ul style="list-style-type: none"> 全ての漁船や漁具を受入可能な港が近隣にないため、本案による解決は困難である。 平成 23 年度 WS では、漁協・漁場・漁港の統廃合を進め、他漁港やマリーナなどの既存施設の有効活用を模索すべきとの意見が出された。

※鎌倉沿岸は、和賀江嶋を除いて世界遺産登録の構成資産（近隣には極楽寺子院仏法寺跡がある）がないため、代替案②以外は、世界遺産登録への影響が懸念されない。

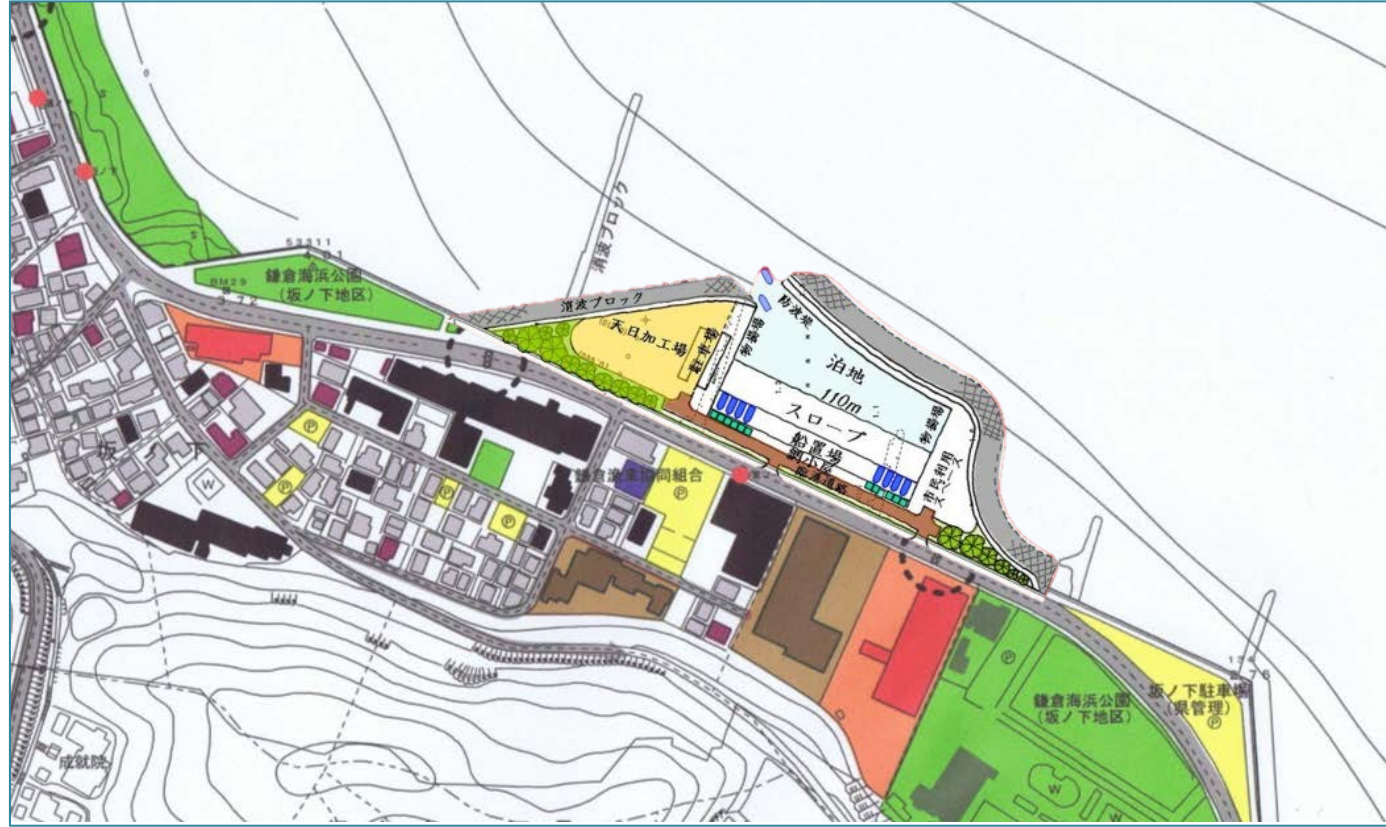
※周辺交通への影響に関して、増加する交通量は少なく、利用時間帯も交通ピークとは異なるため、渋滞等への影響は軽微である。

※主な工事には、整備する場合の代表的な工事と維持管理に必要な工事を挙げている。

漁対協案・代替案のイメージ図

■漁対協案／埋立式

平成 22 年度報告書より



■既存施設の機能・構造強化

具体的なイメージが例示されたことがない。

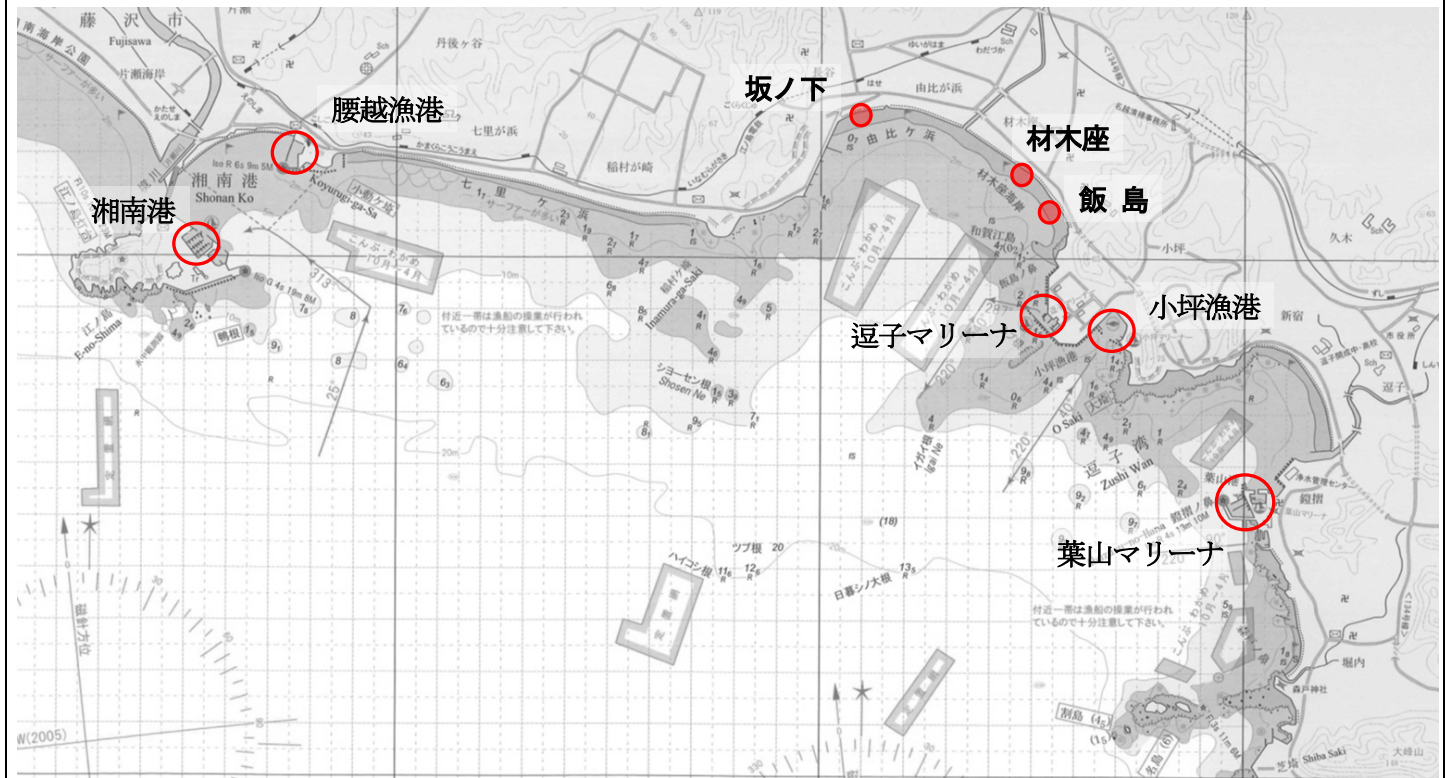
■代替案①／堀込式 (参考：県内事例)

平塚漁港／©2012 Digital Globe より



■他港への拠点移行 (参考)

海図 (H176W) に近隣他港を表示



鎌倉地域の漁業と漁港にかかるワークショップ

～第9回ワークショップ資料～

解決したい課題とその対策例および懸案事項

平成24年7月28日

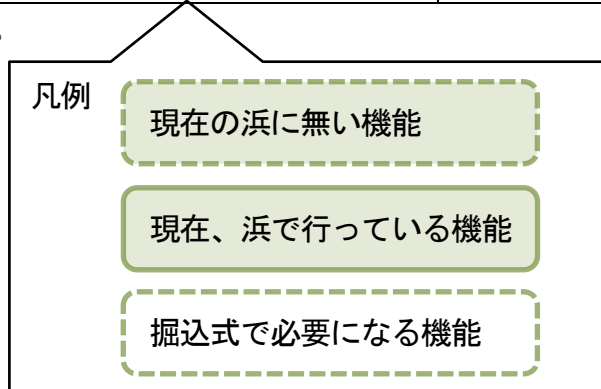
鎌倉市市民活動部産業振興課

■□■解決したい課題とその対策例および懸案事項■□■（1 / 2）

解決したい課題 (鎌倉地域の漁業の現状に対して)	対策の選択枝の例 (具体的に考えられる施設・機能)	懸案事項 (対策によって生じる可能性がある問題点)	備考		
<div style="border: 1px solid red; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">『台風などの時化で船を安全に避難させる場所がなく、度々被害が発生している』 ことを改善し、安全性を確保したい。</div> <div style="border: 1px solid red; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">『日常の漁労（砂浜からの出漁、水揚げ、出荷等）について過労働を強いられている』 ことを改善し、漁業操業の安定化を図りたい。</div> <div style="border: 1px solid red; border-radius: 10px; padding: 5px;">『浜小屋や周辺の景観が雑然としていることから、これらを整理整頓すべき』 といった意見に対応したい。</div>	<div style="border: 1px solid red; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">時化でも安全に停泊できる水域や陸揚げ場を確保する。</div> <div style="border: 1px solid red; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">安全で安定した出船・帰船ができる施設を確保する。</div> <div style="border: 1px solid red; border-radius: 10px; padding: 5px;">台風等の被害に合いにくい用地を確保して、整理整頓する。</div>	<div style="border: 1px dashed green; border-radius: 5px; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">航路・泊地</div> <div style="border: 1px dashed green; border-radius: 5px; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">防波堤</div> <div style="border: 1px dashed green; border-radius: 5px; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">護岸</div> <div style="border: 1px dashed green; border-radius: 5px; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">物揚場</div> <div style="border: 1px solid green; border-radius: 5px; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">船揚場（斜路）</div> <div style="border: 1px solid green; border-radius: 5px; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">船置場</div> <div style="border: 1px solid green; border-radius: 5px; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">荷捌き所</div> <div style="border: 1px solid green; border-radius: 5px; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">天日加工場</div> <div style="border: 1px solid green; border-radius: 5px; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">漁具倉庫</div> <div style="border: 1px solid green; border-radius: 5px; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">駐車場</div> <div style="border: 1px solid green; border-radius: 5px; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">道路</div> <div style="border: 1px dashed green; border-radius: 5px; padding: 2px;">橋梁</div>	<div style="border: 1px solid orange; border-radius: 5px; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">海浜地形への影響</div> <div style="border: 1px solid orange; border-radius: 5px; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">自然環境への影響</div> <div style="border: 1px solid orange; border-radius: 5px; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">景観・眺望の変化</div> <div style="border: 1px solid orange; border-radius: 5px; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">生活環境への影響</div> <div style="border: 1px solid orange; border-radius: 5px; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">国道 134 号への影響</div> <div style="border: 1px solid orange; border-radius: 5px; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">海浜利用への影響</div> <div style="border: 1px solid orange; border-radius: 5px; padding: 2px;">海域利用への影響</div>	<div style="border: 1px solid purple; border-radius: 5px; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">侵食と堆積のバランス</div> <div style="border: 1px solid purple; border-radius: 5px; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">海浜の分断の可能性</div> <div style="border: 1px solid purple; border-radius: 5px; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">岩礁と藻場の消失</div> <div style="border: 1px solid purple; border-radius: 5px; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">潮流・波浪への影響</div> <div style="border: 1px solid purple; border-radius: 5px; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">背後市街からの眺望</div> <div style="border: 1px solid purple; border-radius: 5px; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">海岸景観の変化</div> <div style="border: 1px solid purple; border-radius: 5px; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">騒音・においの集中</div> <div style="border: 1px solid purple; border-radius: 5px; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">漁業関係車両の集中</div> <div style="border: 1px solid purple; border-radius: 5px; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">海水浴利用への影響</div> <div style="border: 1px solid purple; border-radius: 5px; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">海岸散策への影響</div> <div style="border: 1px solid purple; border-radius: 5px; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">マリンレジャーへの影響</div> <div style="border: 1px solid purple; border-radius: 5px; padding: 2px;">漁場（漁業）の影響</div>	<p>■基本計画で精査されるもの</p> <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 5px; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">海浜地形影響調査</div> <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 5px; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">自然環境調査 環境アセスメント調査</div> <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 5px; padding: 2px;">潮流・波浪影響調査</div> <p>※環境アセスメントで騒音・振動等を検討する。</p> <p>※環境アセスメントで交通量調査に基づく予測影響予測を検討する。</p> <p>※海浜地形景況調査や潮流・波浪影響調査等から検討する。</p>

【参考】平成 22 年 3 月に基本方針として挙げられた鎌倉地域の漁業の課題は以下の通り。

- ① 鎌倉地域の漁業に係る労働環境の改善
- ② 施設整備による漁業操業の安定化
- ③ 漁船・浜小屋等の集約・整理／海岸利用の適正化
- ④ 地産地消の拡大による地域（市民）貢献
- ⑤ 地域資源としての鎌倉漁業の認知度の向上



その他

費用対効果分析調査

■□■解決したい課題とその対策例および懸案事項■□■（2／2）

解決したい課題 (鎌倉地域の漁業の現状に対して)	対策の選択肢の例 (具体的に考えられる施設・機能)	懸案事項 (対策によって生じる可能性がある問題点)	備考

■前ページ以外に自由に記載するためのシートです。

平成 24 年 7 月 28 日

第10回ワークショップ配布資料

- ①第10回ワークショップ 次第
- ②資料－1：第9回ワークショップで出された主な意見
- ③参考資料－1：若手漁業者の思い

鎌倉地域の漁業と漁港にかかるワークショップ

第10回ワークショップ 次第

■ 日 時：平成24年8月25日（土） 10:00～12:00

■ 場 所：鎌倉市役所 講堂

■ 参加者

● 市民参加者：公募市民：19名

関係団体：19名 計：38名

● ファシリテータ：齋藤 潮氏（東京工業大学大学院

社会理工学研究科教授）

● 事務局：鎌倉市市民活動部産業振興課
（財）漁港漁場漁村技術研究所

■ プログラム

はじめに（5分）

① 第9回ワークショップの議事概要 資料－1

第1部（55分）

② 鎌倉漁業協同組合の将来ビジョンについて（55分）

第2部（55分）

③ 意見交換／鎌倉地域の漁業と漁港の将来ビジョン

終わりに（5分）

④ 次回のご案内

■ 配布資料

第9回ワークショップ 次 第

資料－1：第9回ワークショップで出された主な意見

第 9 回ワークショップで出された主な意見

第 1 部 前回議事概要と前回意見への対応

【第 8 回ワークショップの議事概要について】

- ・ この WS では、この部分は絶対にダメという事項を決めればよいのではないかと、という意見がぬけているので、追記してほしい。

【漁対協案と代替案の定性的な比較について】

- ・ これまでの経緯という欄に前年度までの WS の成果が入っていないので、入れるべきではないか。
- ・ 漁港建設は当面無理であるという話がなぜ記載されていないのか。
- ・ 秋の台風シーズンに向けた解決策を中心に議論すべきではないのか。
- ・ 漁業者の立場としては、荒天時の他港への避難はできる限りしているが、限界がある。また、他港への拠点移行は現実として無理だと考えている。
- ・ 恣意的な比較となっているようである。(たとえば、マリーナでの係留費用が高い等は建設費と比較して総合的に考えるべきだろう)
- ・ 行政側の仕事を進行することしか考えていないのではないかと。市民の気持ちをくみ取っていない資料である。

第 2 部 今年度のワークショップのテーマの検討

【今年度のテーマについて】

- ・ 漁港の具体的な検討をしていきたい。
- ・ 漁港案は漁対協案ということなので、その他の案を検討すべきではないか。
- ・ 去年の WS の成果から考えると、鎌倉市水産業のビジョンについてまず整理すべきだろう。
- ・ 水産業についてどのようなビジョンを持っているか、漁業者の方々の話が聞きたい。

【検討のやり方について】

- ・ 議論が進まないため、グループに分かれて検討すべき。
- ・ 同じ思想の人があつまってグループワークをしても仕方がないため、全体で検討を行うべき。
- ・ テーマを決めて、そこから外れないように検討する方が、効率化という点はグループに分けるより有効ではないか。

【その他】

- ・ 漁港建設に反対する人は、自分の居住地の前につくられるから反対なのではないかと。本音をしりたい。
- ・ 最初はそうだったかもしれないが、今は違う。市民の立場として、鎌倉市の税金の用途が適切かという視点で考えている。
- ・ このような対立は不毛であるため、やめた方がいい。

- ・ 湘南地域の他の漁港のように、いったん埋め立てをしたら、埋め立て区域が拡大し、環境が悪化することを懸念している。
- ・ 環境の悪化にもっとも影響を受けるのは漁業者であるため、そのようなことは生じないのではないかと。

【旗揚げアンケートの結果】

① 今年度のワークショップで検討したいこと

No.	回答	旗の数
1	将来的な漁港整備に備えて、「もしも漁港が整備されるなら」という視点から、「具体的な計画案や代替案」について検討したい。	7
2	「もしも浜を使った漁業が続けられるなら」という視点から、現状の課題に対する「現実的で具体的な解決策」について検討したい。	5
3	将来的な漁港整備の是非を判断するために、「いずれの場合においても必要だと考えられる項目や課題」について整理するとともに、詳細に検討したい。	8
4	将来的な漁港整備の是非や現状の浜利用の漁業継続にあたっての課題解決についても、どの視点からアプローチしたらよいか、どう考えたらよいか、まだ判断できない。	2
5	その他	5

【その他の意見】

- ・ 漁港整備の是非を判断するのではなく、鎌倉の水産業のビジョンからやりたい
- ・ 同じ意見。今回のWSはなくてもよい。このWSとは別の会を市民参加の基に立ち上げた方がいい
- ・ どうしても行政が漁港を進めたいという印象を受けるので、このWSは終わりにしたい。
- ・ 今後の進め方というのであれば、政策創造部などと一緒に進めていくべき。
- ・ 全体から話す機会を再度、コーディネートし直してはどうか。今回のWSに参加している人で、そちらに参画したい人、他の市民や関係者も募って別建てのWSをやるべき。

② 今後のワークショップの進め方

No.	回答	旗の数
1	グループワーク（3回）を通して、徹底的に話し合いたい。	4
2	グループワーク（2回）の後に現地踏査（1回）を行い、検討した内容について検証する機会としたい。	1
3	まず、現地踏査を行うことで現状の課題の把握をし、その後、グループワーク（2回）を通して、具体的な提案を検討したい。	0
4	グループワーク（1回）を行い、次ぐ現地踏査で現状の課題の把握をするとともに検討しようとしている提案について検証し、2回目のグループワークでさらに内容を深めていきたい。	1 1
5	その他	5

【その他の意見】

- ・ 現地踏査というが、どんなシーズンの何時頃にするつもりでいるのか？
- ・ 何時頃に、何を見るのか、それがとても大切なことだ。
- ・ 船の出し入れが危険を伴うことやそれを実際に体験してもらおうなど、外から眺めていてもわからないことを知る機会にしてほしい。

鎌倉の漁業および水産業の未来（若手漁業者の想い）

鎌倉漁協には十名前後の若手漁業者（十代から40代まで、漁業経験10年以内）がおりますが、その若手の将来が不透明です。港の整備ということと不可分である漁業の振興はどうあるべきか、これまで行政任せだった水産事業を、自分たちで活性化することはできないだろうか。

先日若手の集まりで意見を交換しました、そこでの話の一部を簡単にお知らせします。

鎌倉には大きく分けて、シラス漁業者、定置網漁業者、刺し網漁業者という三種類の漁業形態がある。

シラス漁業は認可事業のため、この先参入が望めない。

定置網漁は、ここ数年低調に推移しており、参入に当たっては高額な資金が必要ということもあって、若手にとっては参入しにくい。

結局のところ、新規若手漁業者の仕事は刺し網と冬場のわかめ、アカモク事業ということになるのだが、この漁業形態の未来はどのようなだろう。

漁業者一人、または夫婦での操業には限界がある。現在こうした形（漁業者一人または夫婦）での操業をしている漁業者の収入を参考にすると、若手漁業者が将来、複数の子供を育て、進学を支え、自分の家を持つという多くの国民の平均的な生活を漁業のみで担保することは容易なことではない。

今の漁業の状況は。

これまでは収入を上げるには水揚げを増やすということで対処してきたが、資源の枯渇や魚食離れによる漁価の低迷はとどまるところを知らず、やみくもに収量を増やしても中卸に買い叩かれるばかりで、更なる資源の枯渇につながりかねない。

これは鎌倉だけの問題ではないが、漁価が低迷するから同じ収入を得るためにたくさん捕るというサイクルは、何の解決にもならないのは明白。根本的な解決は水産物の付加価値を上げて、より多くの国民に利用してもらうことを通した魚食の復権である。魚食はヨーロッパや中国で急速に伸びており、尖閣列島や竹島の領有権も、漁業水域の確保という側面を持っていることを忘れてはならない。

魚食の見直しは必ず起こる。この時を逃さぬように準備しなければならない。

もちろん魚食の復権と、収穫物への価値付加による売価の上昇は簡単なことではないが、これなしに若手漁業者の将来展望はない。

では具体的にどういうことが？

原則的に収量は今のレベルを保ち、これを高価値で販売することを考える。

① 販売形態の検討

・販売場所 漁協（※）の直売場を確保する。例・滑り川のガイド協会の建物の利用など、市の施設を利用した展開。

・販売品目 魚食離れの現状を直視し、加工品を開発して新規メニューを提案しながら展開してゆく。
例 アンチョビを利用したスパゲティアリオーリ、雑魚を利用したスープドボワソン、未利用のさめなどを利用した練り物の開発。

・期間限定のイベントを展開する。4月から5月のさぎえの豊漁期に、県の許可を得て海岸で「漁協直営（※）のサザエ小屋を開設、サザエのつぼ焼きなどを中心にしたメニューで観光客を集客、同時にアカモク丼や、アカモクそばなどの新規メニューを広めてゆく。

② 加工の一元化の検討

現在は事業者ごとにやっている加工を一元化し、より衛生的で効率的な加工を実現する。このことで、生産量を上げ、漁業者の負担を軽減することを通して利益率のアップを図る。

加工品目例・茹で蛸、刻みアカモク、塩わかめ、干物、アンチョビ、など、通年で加工できる品目をチョイス。

③ 事業形態の検討（※）

本来①②の事業は漁協主体で展開すべきものだが、漁協の財政等を見ると可能性が低いといわざるを得ない。では、事業者が共同で事業体を立ち上げてはどうだろうか。事業者が出資して会社を設立し事業を委託する、漁業者はその会社に収穫物を売るとともに、事業会社の配当も得る仕組みを作る。

この事業は第三セクターのようにして、広く市民の出資も募ることができるかもしれない。

行政、市民、漁業者が一体となって収益を増やし、鎌倉の観光資源を創出するひとつのコアにしてゆく。

いずれにしても、若手漁業者の将来と鎌倉の水産業の未来は不可分の関係にある。大胆で新しい視点での漁業振興を事業主体である漁業者中心に提案してゆこう。安全操業の最低限の条件である魚港建設という目標も、市民の皆様にごこうした産業振興の一環として捉えてもらうことが必要だということが確認されました。

平成24年8月20日

若手漁業者の現在と将来

現在の漁業(労働条件・労働時間・売り上げ・収入)
別紙参照

安全に操業したい

物理的な意味で効率的に仕事をしたい

漁港が欲しい

経済的な面から売り上げを伸ばしたい

漁業という仕事に誇りを持ちたい(精神面)

鎌倉の漁業者として広く認められたい

鎌倉における沿岸漁業のこれから

今どういう問題が？

経済的に暮らしが厳しい。将来が不安。本当に漁業で家族を養えるの？第一次産業に未来はあるの？

これまでの解決方法では

問題は複雑で多岐にわたる

水揚げが増えない

魚価が低迷している

魚食が減っている

なぜ鎌倉でやるの

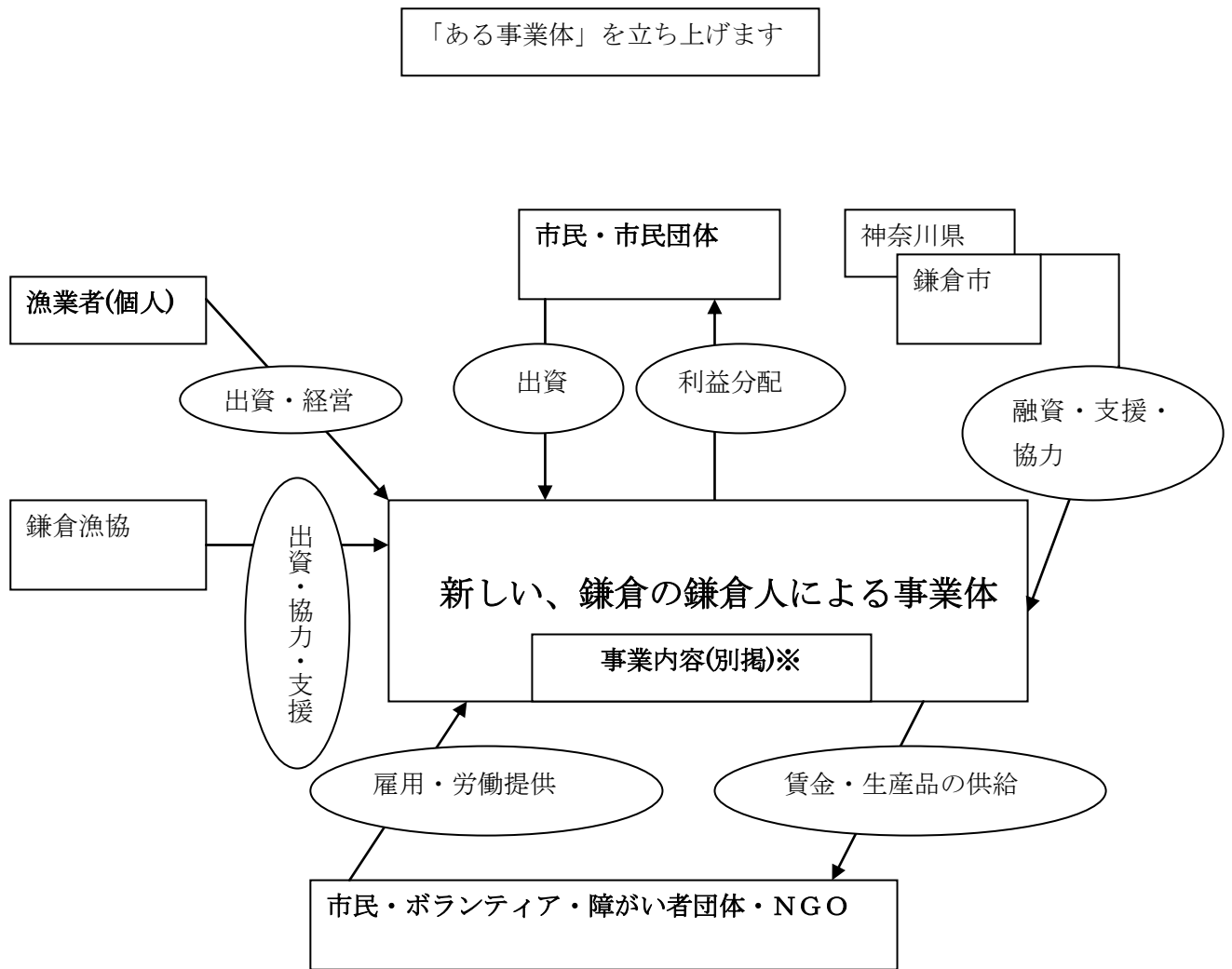
小規模な事業体では労働強化以外に収量が増やせない
網の数を増やすなどして、収量を上げる→単価がより安くなるというジレンマ
さらには乱獲による資源の枯渇が懸念される。
魚食の回復には何年も何世代もかかるのではないか。

だから

資源を減らさず、今の収量を維持して経済的な増収増益を目指すなら、現在の生産・流通を鎌倉の漁民の視点で根本から見直す必要がある

斬新なアイデア

大胆な展開



漁獲物の直接販売	販売の基本・だが活魚、鮮魚の直売には限界も
漁獲物の加工販売、※1	加工の一元化による衛生管理と、効率化。商品のバリエーションアップ
季節イベントの開催(春のサザエ小屋) ※2	鎌倉の名物創出、話題性による多くの商品展開
季節イベントの開催(秋の魚祭り) ※3	現在の朝市の拡大、充実

※1 個人レベルの加工では生産量に限界があるし、加工品を作る時間にも限界がある。

※2 イベントを開催し、フィッシャーマンシティ鎌倉をアピールする

※3 朝市の集客を広く首都圏にまで拡大・宿泊客の増加につなげる

第11回ワークショップ配布資料

①現地見学予定表

②メモ用紙

③現地見学用資料

④小坪漁港の概要

鎌倉地域の漁業と漁港にかかるワークショップ

現地見学予定表

■開催日時：平成24年9月29日（土） 8:30~12:00

■見学場所：小坪漁港、坂ノ下地区

■意見交換：鎌倉漁業協同組合会議室

■行動予定

	時間	行 動	備 考
①	8:30	受付開始	市役所正面玄関前
	8:45	出発	マイクロバス
②	9:00	小坪漁港見学	施設見学、解説 他
	9:30		
		移動	マイクロバス
③	9:45	坂ノ下地区周辺見学	浜小屋見学、漁労体験 他
	10:30		
④	10:30	坂ノ下護岸周辺見学	徒歩
	11:00		
⑤	11:00	意見交換	鎌倉漁業協同組合会議室
	12:00		
⑥		解散	市役所まで送迎可

※時間は、適宜調整します。

※浜小屋見学のグループ分けは、坂ノ下到着後に行います。

※坂ノ下護岸の周辺を見学する場合は、可能な限り参加者全員で移動します。

■現地見学用資料について

お渡しする現地見学用資料（地図等）は、前回までのワークショップで提示している大判の地図と同じものです。

現地見学によってあらたに気がついたこと、現場を見ての率直な感想、漁業の将来に向けた具体的な提案などを地図上や次ページの感想・意見メモに書き込んだりして、次回ワークショップの資料としてください。

現地見学においては、以下のポイントを踏まえてください。ただし、これらのポイントは限定的なものではありませんので、メモの内容は自由に記載して頂いてかまいません。

◆現地見学のポイント

- 鎌倉地域の漁業の現状と課題
- 鎌倉海岸の環境や景観、利用
- 当面の支援策について
- 将来的な漁港建設について
- その他

■質問について

現地では、時間的な制約があるため簡単な質疑はできますが、全ての質問にお答えすることはできません。回答を得られなかった質問は別紙に記載して、現地見学終了後もしくは次回ワークショップの際に事務局にご提出ください。

■次回ワークショップについて

次回のワークショップでは、大判の地図上に、これまでのワークショップでの意見交換や現地見学によって気がついたことや率直な感想、鎌倉の漁業の将来に向けた具体的な提案などについてのコメントを直接記入して頂きます。

記入するメモやコメントは、文章、キーワード、図（絵）など、特に制限を設けません。（次ページで書いたメモを切り取って貼り付けていただくこともできます。）

また、記載された意見に対して、賛成する場合または反対する場合は、それぞれ色分けしたシールを貼って、意思表示をすることができるようになります（事務局が準備）。

全ての意見は、今年度のワークショップの成果のとりまとめの際の貴重な材料となります。

鎌倉地域の漁業と漁港にかかるワークショップ

現地見学用資料

平成24年 9月29日

鎌倉市市民活動部産業振興課



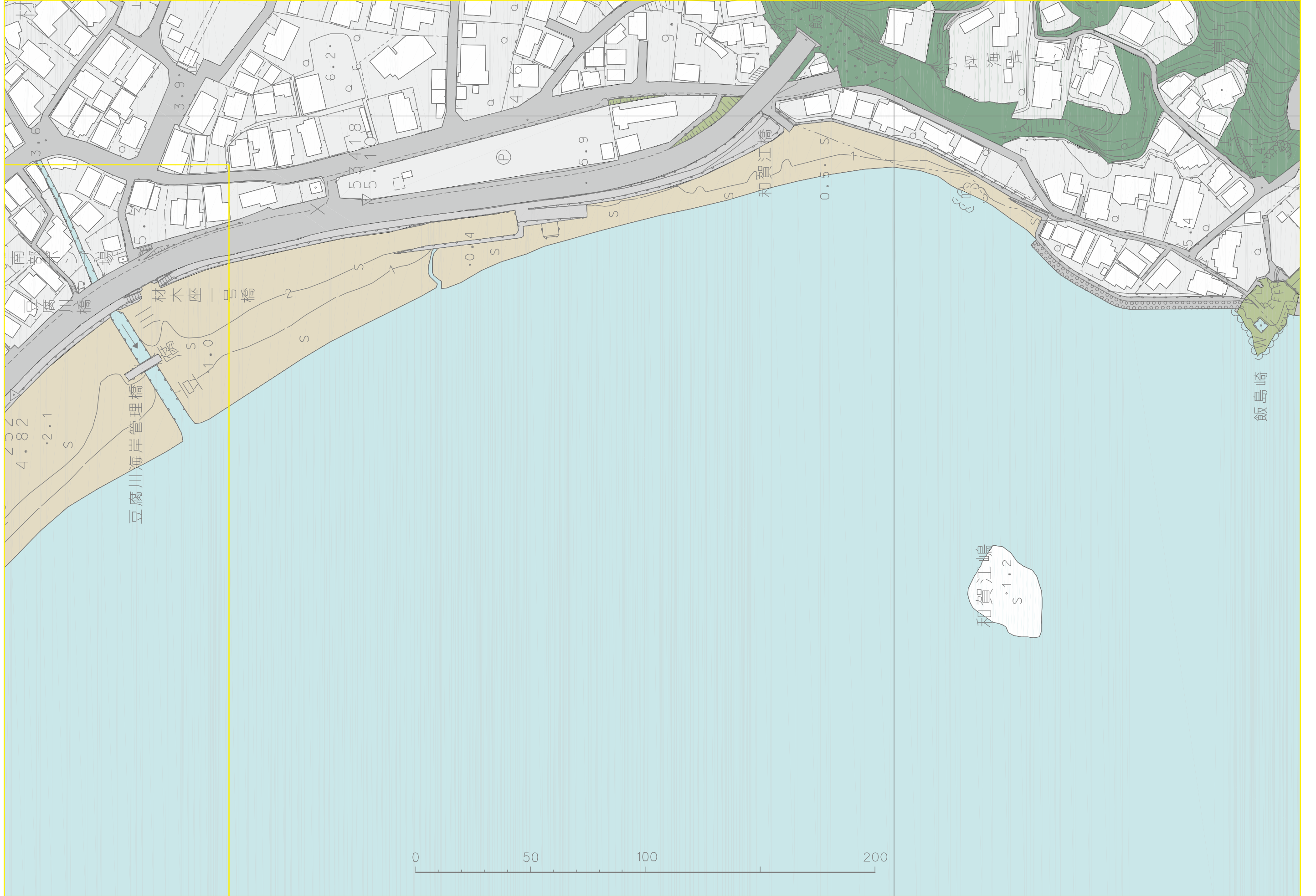












鎌倉海岸（坂ノ下・由比ヶ浜～材木座・飯島・和賀江嶋）空中写真



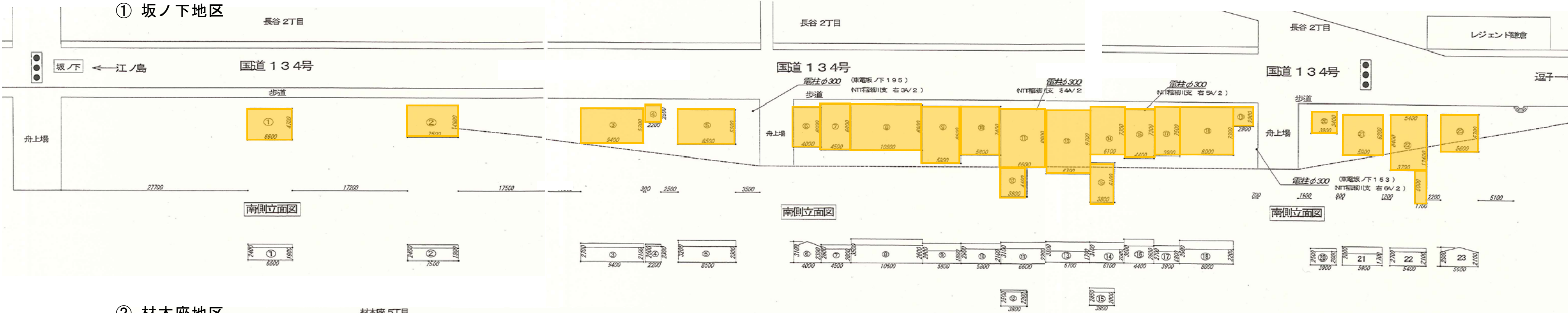
【参考】鎌倉漁業協同組合の海岸等の所有・占有施設概要



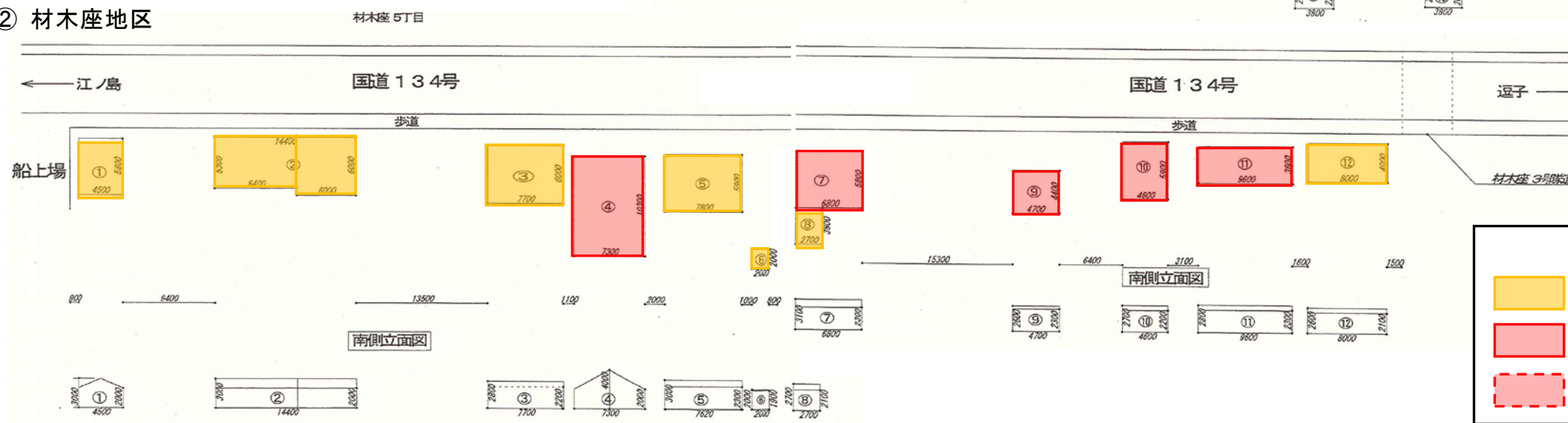
【参考】浜小屋の占用状況と撤去（漁港への移行）予定

第3次鎌倉漁港対策協議会第7回会議資料より

① 坂ノ下地区

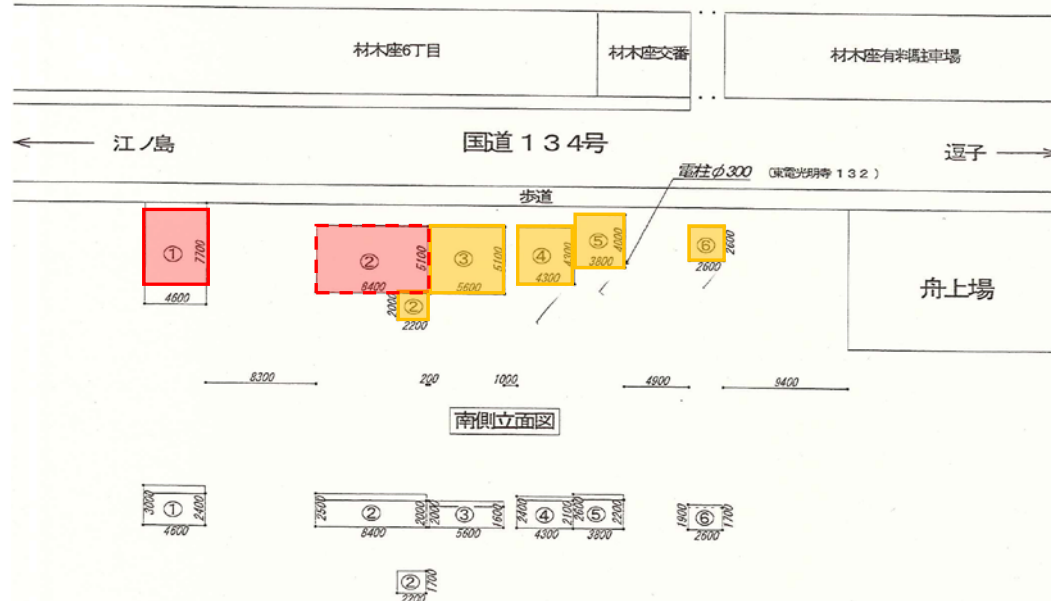


② 材木座地区



凡 例	
	新たな漁港へ移行または撤去予定
	現状規模を維持：浜小屋の移動はあり得る
	現状規模を縮小：浜小屋の移動はあり得る

③ 飯島地区



現状の海岸占用規模と漁港への移行及び海岸残存規模

地区名	現状の海岸占用		新たな漁港へ移行		海岸へ残存		
	棟数	占用面積 (ア)	棟数	撤去面積 (イ)	棟数	面積(ウ)	(ウ)/(ア)
①坂ノ下地区	23 棟	約 860 ㎡	23 棟	約 860 ㎡	0 棟	約 0 ㎡	0%
②材木座地区	12 棟	約 450 ㎡	7 棟	約 250 ㎡	5 棟	約 200 ㎡	44%
③飯島地区	6 棟	約 150 ㎡	4 棟	約 90 ㎡	2 棟	約 60 ㎡	40%
合計	41 棟	約 1,460 ㎡	34 棟	約 1,200 ㎡	7 棟	約 260 ㎡	18%

※海岸管理者に占用許可を受けている建築物(ウインチ小屋を含む)の棟数および面積を示している。
 ※飯島地区で残存予定の2棟については、一部を縮小しつつ最終的には材木座地区に集約したい。
 ※材木座地区の浜小屋による占用は、飯島地区からの約60㎡程度(2棟)の移動を考慮すれば、約260㎡現状面積の58%としたい。
 ※新たな漁港で整備する漁具保管施設の面積は、現状の浜小屋の外に置かれた漁具・資材も含めて検討したい。



小坪漁港

●所在地/逗子市小坪 ●指定年月日/昭和27年1月12日

●管理者/逗子市(昭和30年8月19日 神奈川県告示第616号)

●関係漁連/小坪漁業協同組合



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製し、約150%拡大したものである。(承認番号 平21業複、第28号)

漁港の沿革

本港は遠く鎌倉時代より歴史があり相模湾にある漁港の地として有名である。

民間会社が昭和40年代に行った公有水面埋立に伴う漁業補償として防波堤、護岸等が造られ漁業施設として寄贈され、後に第5次、第6次漁港整備長期計画により船揚場が造成され、現在はほぼ完成した漁港となっている。

主力漁業は、5トン未満の漁船による覗突、採藻、わかめ養殖業、刺網等の沿岸漁業であるが、安山岩投入による投石礁を造成し、あわび、さざえの稚貝の放流を行い「とる漁業」から「育てる漁業」へと転換を図っている。

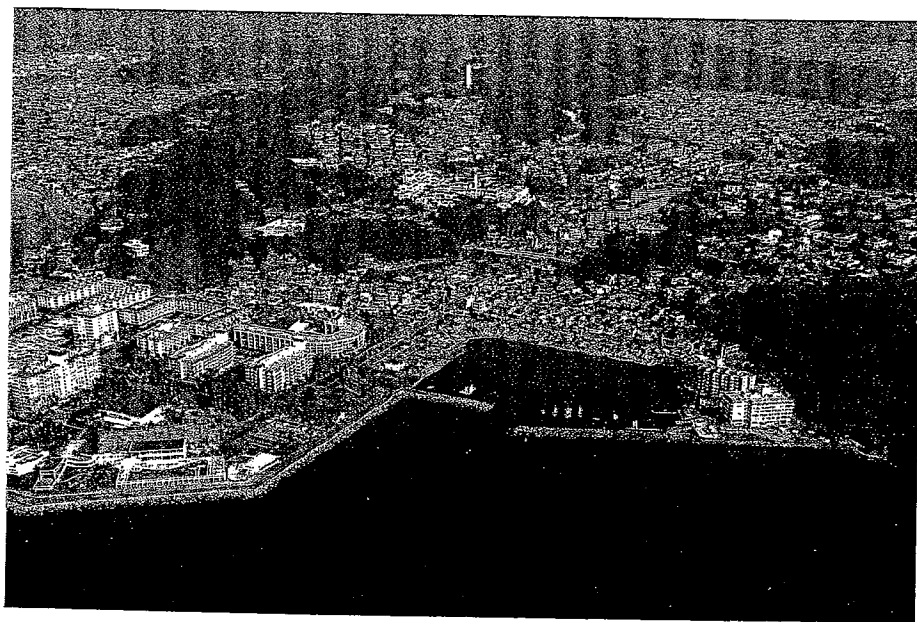
主な漁港施設

外郭施設：防波堤	195.50m
護岸	881.66m
係留施設：船揚場	223.18m
物揚場	78.00m
水域施設：泊地	23,000㎡

主な関連施設、行事等

小坪漁業振興センター：192.34㎡
漁港関係敷地：3,360㎡

漁港区域には、クルーザーやヨット、夏にはプールも開設されるマリーナレジャー施設があり、一年を通じて多くの観光客が訪れている。このような観光資源に恵まれた漁港であるため、より水産業への理解を深めてもらえることが期待される。



漁港への交通手段 JR「逗子」駅からバス小坪経由鎌倉行き「小坪海岸」下車徒歩3分
問い合わせ先 逗子市市民部経済観光課 TEL.(046) 873-1111 (内) 213

第12回ワークショップ配布資料

- ①第12回ワークショップ 次第
- ②資料-1：ワークショップからのメッセージについて
- ③参考資料：現地調査後に寄せられたご意見

鎌倉地域の漁業と漁港にかかるワークショップ

第12回ワークショップ 次第

■ 日 時：平成24年10月13日（土） 10:00～12:00

■ 場 所：鎌倉市役所 講堂

■ 参加者

● 市民参加者：公募市民：19名

関係団体：19名 計：38名

● ファシリテータ：齋藤 潮氏（東京工業大学大学院

社会理工学研究科教授）

● 事 務 局：鎌倉市市民活動部産業振興課
（財）漁港漁場漁村技術研究所

■ プログラム

はじめに

① 本日の議題について（10分）

～本日の議題と事前に寄せられたご意見について

第1部（30分）

② WSメッセージの主題について

③ メッセージの発信先について

第2部（75分）

④ メッセージのまとめかた、内容について

終わりに（5分）

⑤ 次回のご案内

■ 配布資料

第12回ワークショップ 次 第

資料－1：ワークショップからのメッセージについて

事前配布：第11回WS議事録（未定稿）

ワークショップからのメッセージについて

平成24年10月13日

1. メッセージの主題

前回（現地見学）の意見交換会で、ファシリテータが整理した『本ワークショップからのメッセージ』の主題は、以下の通りです。

- ① 鎌倉地域の漁業の将来ビジョン
- ② 台風被害など、喫緊の課題に対する解決策
- ③ 行政に頼らない、市民による水産業支援への取り組み

2. メッセージの発信先

メッセージの発信先は、主題により変わることも考えられます。

- A) 鎌倉市
- B) 漁業者
- C) 鎌倉市民
- D) 海浜・海域利用者
- E) その他

3. メッセージのまとめかた

昨年度は、事務局（鎌倉市）が参加者の意見を報告書にとりまとめましたが、意見の集約を含めて報告書のとりまとめには次のような方法が考えられます。

- イ) 事務局（鎌倉市）がとりまとめる。
- ロ) WSとしてとりまとめる。
- ハ) 参加者全員が個々にメッセージを書く。
- 二) その他

※記載している内容は、あくまでも例示です。

※上記以外に必要な内容、不要な内容は、協議の上、追加削除します。

以 上

現地調査後に寄せられたご意見

平成 24 年 10 月 13 日

【ご意見 1】

1. 今年度の成果について

“子供たちに残すべきもの／残してはならないもの”の視点で整理するとよいと考えます。

【残すべきもの】

- ①できるかぎり自然な海の姿
- ②豊かな食文化（含む地産地消の有難さ、漁の大変さ、後継者問題等への理解）

【残してはならないもの】

- ①開発による再生不能な自然環境
- ②税金の増加などの負債

これまで、WS ではあまり議論されてなかった気がしますが、子供たちに何を残し、何を残してはならないか、は中長期の本質的な課題であり、市民に理解されやすい観点だと思えます。

前々回、参加者のお一人から、「税金なんて多少ムダ使いしたっていいのでは？」旨の発言がありましたが、子供達の時代に、地方税、消費税、年金等、これ以上の負担を増やさない努力を、今、大人達はしておくべきです。

中長期で見ると数十億円かかるであろう、しかも環境にも負荷をかける懸念のあるインフラ整備を、安易に進めるのは、無責任だし、恥ずかしいことだと思います。

（行政は茅ヶ崎や平塚新港等の事例からもっと真摯に学ぶべきです）

[http://homepage2.nifty.com/shirahama_morio/Shounan%20Online\(Hiratsuka\).htm](http://homepage2.nifty.com/shirahama_morio/Shounan%20Online(Hiratsuka).htm)

2. ”当面”の意味

今後、まず検討し、アクションすべきは、残すべき”豊かな食文化”について、ハード先行ではなく、浜売りの定例化や子供の漁体験のようなソフト面の活動だと考えます。

これにより、豊かな食文化についての体感・市民理解が一定進んだ状況を創るまでが「当面」であり、それ無しに、漁港建設の検討には進むべきではないと思えます。

「市民理解が一定進んだ状況」については、浜売りの来場者数、漁体験の参加者数のように定量的に示せるようにしておくべきです。

個人的には、ネット等による世論調査を実施し、「このような豊かな食文化を残すためにインフラ整備が必要ならば税金を使うことも止むなし」という市民が半数以上になって、はじめて漁港建設の議論をスタートすべきで（それまでは凍結）、その際も漁港建設ありきではなく、「豊かな食文化を残すための手段は何か？」という一段上のテーマで議論を開始すべきですし、「豊かな自然を残す」ための議論や環境調査等検証と両面平行して検討すべきだと考えます。

また、子供達ですら、鎌倉の安全面を日々心配しつつ、震災に被害にあった方々へのいたわりの気持ちを持っている現状にあって、行政や漁業関係者も、その点についての活動やその周知をもっとすべきだと思います。

私の知人の七里ヶ浜の有志の方々が、宮城県七ヶ浜の復興を継続的に支援しています。

そういうソフトの活動に行政や漁業関係者も積極的に参画し、発信することで、同時に鎌倉の安全面の整備に注力し、周知し、安心感を持ってもらうことで、「鎌倉の漁業者も応援したい」という市民感情も育まれるのではないのでしょうか？

逆に、復興を応援しようというこの時期に、どれだけ必要か疑問を持たれるような地元のインフラに億単位の投資をすることは、鎌倉行政、漁業者、ひいては市民の見識が全国から疑われてしまうと思います。

以上、要約すると、

「子供達にいたずらに負担を増やすハード先行の漁港建設は無理。まずソフト面の活動から」

「ソフト面の活動で一定の市民理解が得られるまで漁港建設の検討は凍結すべき」との意見になります。

斉藤教授が今年度のWSのテーマの一つは『漁港を造るとした場合の要件の明確化』だと仰っていましたが、その要件、というより第一の前提は、『ソフト面の活動による一定の市民理解』だと考えます。(ちなみに私見では第二の前提は市の財政再建ないし健全化です)

残りのWSないし、別の場で、どんなソフト面の活動をすべきか、一定の市民理解の基準をどこに置くべきか、を討議すると建設的だと考えます。

これまで、WSに参加し、漁業者の方々の思いやご苦労も理解した上で、市民と漁業者の双方が手を取り合える方向だと信じておりますので、以上、何卒宜しくお取り計らいお願い申し上げます。

【ご意見2】

期限ぎりぎりになりましたが、やっぱり、伝えておこうとります。

「やっぱりどう考えても時期が悪い。東北の各漁港がこういう状態の時に、鎌倉市に2つ目の、新たな漁港建設の基本構想・計画を日本国にあげるということが、鎌倉市として恥ずかしいと思う。」

東北の件が片付いてからでないと、鎌倉市は国に言うべきではないと思います。

今はビジョンにとどめておいた方がよいと考えます。

乱暴ですみません。

あえてメールで言うことか否か迷いましたが、今後意見を伝える場もなくなることを考え、送信することにしました。

国民共通認識だからこそあえて言わない、という状態だと思います。

「そんなことわかってる」というふうに。

でもだからこそ、当たり前前のが置き去りにされていくのもいかなことかと思いメールします。

【ご意見3】

① 漁業体験で感じたこと。

漁業体験、貴重な経験が出来、ご協力頂いた漁業者のみなさんありがとうございます。ほんの一瞬ではありますが、漁業者の皆さんの日々苦勞に触れることが出来ました。

② 緊急的な対策を。

現状の浜は砂地の上に、頑丈とは言えない小屋で構成されています。ここについて関係行政機関に働きかけ、一刻も早く、安全対策を取るべきだと思います。

③ 漁獲量に関する疑問

漁港を持つ小坪と持たない鎌倉の漁業で、漁獲量に差が無いのはなぜなのか。漁港を持つことで生産性が上がり、漁獲量が飛躍的に上がるということなのでしょう。また、それは何倍程度上がるのでしょうか。

④ 漁港費用の負担は誰か？

漁業者のみなさんの安全に対する懸念については理解出来ます。漁業者のみなさんで漁港の建設費、ランニングコストを負担するというのであれば反対する理由は少なくなると思います。

しかし、全てまたは大部分を税金で負担するというのであれば、反対せざるを得ません。今の時代、ごく一部の限られた人達が使用する施設を使用者の負担がゼロで、高額な費用を全て税金で建設するということに対し、市民の理解を得ることは難しいのではないのでしょうか。

特に、税金を使うのであれば、津波による大きな被害を受ける鎌倉市民の避難先など、「安全」という意味で多くの市民が必要をしている施設を優先すべきではないかと思います。

⑤ 漁港の『市民への利益還元』が現状考えられない。

漁港の市民利用も、小坪漁港の見学の中では「ほぼ不可能」という話があり、また、鎌倉の水揚げの多くが横浜の市場に流れている現状では税金を使う上での最低限の条件である『市民への利益還元』が無いと言わざるを得ないのではないのでしょうか。

『市民への利益還元』が約束されないのであれば、税金を投入することに市民の理解を得ることは難しいと思います。

⑥ 今後について（鎌倉市民への利益還元と流通システムの改革）

漁業者の皆さんの主張の一つでもある『鎌倉市民への水産物供給』を実現し、鎌倉の漁業を産業、町の大きな柱にすることを最優先すべきではないのでしょうか。

そのためには、まず、流通の問題を解決すべきだと思います。鎌倉の漁業者のみなさんが命をかけて捕って来た魚が横浜に流れるのではなく、鎌倉市民に提供出来るシステムを作ること、これが完成され、『鎌倉市民は新鮮な地場の魚を食べることが出来る』という

意識が市民に浸透すれば、自ずと鎌倉の漁業は発展し拡大していくことになるでしょう。その時に初めて、市民の誰もが漁港の必要性を検討をする必要があると感じ始めると思います。

⑦WSの結論について

昨年度のWSの結論である『無理がある』というのは、非常に的を得ていたと思っています。

市役所、ファシリテーターの皆さんは、何かと漁港を作る方向へ話を持っていくと感じていますが、昨年度の結論を元に今回の議論もあることを重視して頂き、まとめて頂きたいと思います。（立場的な気持ちはわかりますが、公平性を大切に）

昨年の結論、今年の結論、多くの人たちが時間を費やした成果であることを忘れずに頂きたいと願います。

【ご意見4】

○提案したいこと

台風の波が国道134号線にあがらないように、浜小屋を整備しては。

○解決したいこと

防波堤を作り、浜小屋まとめて、見栄えの良くした方が良いのでは。

○他

現場に来て驚いた。原始的な作業で船を揚げおろしているのには、見るのと聞く事では違いの大きさを感じた。鎌倉の第一次産業を守りたい。漁師に港を・・・

【ご意見5】

1. 当該・坂の下地域は、殺伐・荒涼とした風景で、何も生まない（感動も 愉しさも お金も健康増進も）と言っても過言とも言えない現状です。 制約はあって当然。

2. 多くの人々の要望を、殆ど叶えることの可能性を秘めた、鎌倉市の貴重な地区です。

3. 此の地区が、真の宝としましょう。 何の様なことが、此の地区で考えられるか。

* 掘り込み港湾・漁港・繫船設備（呼称はおおげさ） 上はがっちりと覆う（PSコンクリート、または、鋼構造）。 屋上には、商業、スポーツ施設。 ソーラー発電。 避難施設。 道の駅兼 海の駅。・・・・

** 国交省 総合政策局、 道路局、 海事局、 農水省・水産庁。
鎌倉市 市議会 etc との対話折衝。

*** 総事業費100億 ?

**** アイデアコンペ 〈検討・採用案 2~3通り。 1案/100万円〉

***** WS で、最高点案 を、議会有志 行政関連部局全て・・・・
対・WSP の合同 討論会にかけて評決。

一案です。若し、この手順が、WKSP の過半数になれば、PPP 方式のモデルにも成り得ましょう。

※いただいたご意見についてそのまま記載しております。

以上

第13回ワークショップ配布資料

- ①第13回ワークショップ 次第
- ②ワークショップからのメッセージ（素案）
- ③資料：事前に寄せられたご意見

鎌倉地域の漁業と漁港にかかるワークショップ

第 13 回ワークショップ 次第

■ 日 時：平成 24 年 11 月 17 日（土） 10：00～12：00

■ 場 所：鎌倉市役所 講堂

■ 参加者

● 市民参加者：公募市民：19 名

関係団体：19 名 計：38 名

● ファシリテータ：齋藤 潮氏（東京工業大学大学院

社会理工学研究科教授）

● 事 務 局：鎌倉市市民活動部産業振興課
（財）漁港漁場漁村技術研究所

■ プログラム

はじめに（10 分）

① 報告書とりまとめにあたって

第 1 部（75 分）

② ワークショップ報告書について

第 2 部（30 分）

③ 今回のワークショップに参加してのご感想

終わりに（5 分）

④ 事務局より

■ 配布資料

第 13 回ワークショップ 次 第

平成 24 年度鎌倉地域の漁業と漁港にかかるワークショップ報告書

～ワークショップからのメッセージ（素案）～

資料：事前に寄せられたご意見

平成 24 年度
鎌倉地域の漁業と漁港にかかる
ワークショップ報告書

ワークショップからの メッセージ

(素案)

平成 24 年 11 月 8 日版
鎌倉地域の漁業と漁港にかかるワークショップ

も く じ

1. はじめに	1
2. ワークショップの概要	2
2.1. 平成 23 年度のワークショップ開催概要	2
2.2. 平成 24 年度ワークショップの開催経緯	3
2.2.1. 開催日等	3
2.2.2. 検討内容	3
2.3. 平成 24 年度開催概要	4
2.3.1. 第 8 回ワークショップ 平成 24 年 6 月 30 日 (土)	4
2.3.2. 第 9 回ワークショップ 平成 24 年 7 月 28 日 (土)	4
2.3.3. 第 10 回ワークショップ 平成 24 年 8 月 25 日 (土)	5
2.3.4. 第 11 回ワークショップ 平成 24 年 9 月 29 日 (土)	5
2.3.5. 第 12 回ワークショップ 平成 24 年 10 月 13 日 (土)	6
2.3.6. 第 13 回ワークショップ 平成 24 年 11 月 17 日 (土)	6
3. 鎌倉地域の漁業と漁港にかかるメッセージ	7
3.1 メッセージ	7
4. ワークショップで出された主な意見・要望	10
4.1. 鎌倉地域の漁業と漁港の将来ビジョンについての意見	10
4.2 台風被害など、喫緊の課題に対する意見	11
4.3 ワークショップのまとめ (メッセージ) について	12
4.4 漁港についての意見	14
4.5 鎌倉漁港対策協議会答申に対する代替案についての意見	15
4.6 ワークショップの進め方についての意見	16
4.7 解決・対応してほしいこと	16
5. おわりに	18

資料編

ワークショップ資料 (第 8 回～第 13 回)

ワークショップ議事録

1. はじめに

「鎌倉地域の漁業と漁港にかかるワークショップ」は、平成 23 年度から平成 24 年度にかけ、平成 23 年 9 月 17 日から平成 24 年 11 月 17 日まで、合計 13 回にわたり、鎌倉地域の漁業と漁港について様々な議論を行った。ワークショップの中では、現地見学も行い、鎌倉地域の漁業の現状を把握しながら議論した。

このワークショップでは、当初、漁港建設の構想の策定に向けた議論を行うこととしていたが、参加者から多種多様な意見が提出され、最終的には水産業の将来ビジョンの検討や鎌倉地域の漁業が抱えている喫緊な課題にまで議論が及ぶこととなった。

この報告書は、これまでのワークショップにおいて提出された様々な意見から、参加者の共通の認識である 3 点をワークショップから行政、市民への「メッセージ」としてまとめるとともに、全参加者から提出された意見を網羅的に整理、編集したものである。

このワークショップにおける議論をきっかけとして市民の間に鎌倉地域の漁業と漁港についての議論が更に高まることを期待し、行政には、ワークショップからのメッセージ、各参加者からの意見を十分に参考にして、今後の鎌倉地域の漁業と漁港の検討に生かしていただくことを期待する。

* ワークショップは、平成 23 年度に 7 回、平成 24 年度に 6 回開催したが、平成 24 年度のワークショップの回数表記は、平成 23 年度からの通算で表記している。



2. ワークショップの概要

2.1. 平成 23 年度のワークショップ開催概要

「鎌倉地域の漁業と漁港にかかるワークショップ」は、「参加する方々（公募市民や関係団体）が、それぞれの立場で意見を持ち寄って、参加者同士で話し合い、「鎌倉地域の漁業と漁港」について考え、市へ意見を提出することを目的にする」と第 1 回のワークショップにおいて事務局から説明があった。

ワークショップは、平成 23 年 9 月 17 日に第 1 回会議を開催し、平成 23 年度中に 7 回開催した。

平成 23 年度のワークショップの成果は、「鎌倉地域の漁業が抱える問題への理解」、「漁港建設の課題」、「水産業振興・支援の必要性」、「ビジョンの明確化」、「市民が求める情報」、「漁対協答申に対する代替案の検討」の 6 点であり、これらについては、「平成 23 年度 鎌倉地域の漁業と漁港にかかるワークショップ報告書」としてまとめた。

はじめに、「鎌倉地域の漁業が抱える問題への理解」については、ワークショップをとおして、漁業者と漁業者以外の参加者の間で十分な意見交換を行うことができ、漁業者以外の参加者が、これまで知らなかった鎌倉地域の漁業の実情について理解が進み、ワークショップという新しい対話の場が形成されたことで、鎌倉地域の漁業が抱える課題や漁港建設に対する市民の意見について、一定の整理ができた。

また、「漁港建設の課題」、「水産業振興・支援の必要性」においては、「現在の社会経済状況や東日本大震災を踏まえると、早急な漁港建設は難しいこと」、「鎌倉地域の漁業の就労環境は厳しく、対策が急がれること」、「今回のワークショップだけでは、鎌倉地域の漁業や漁港に関する議論は不十分であり、ワークショップの継続が必要であること」など、参加者のそれぞれの立場から、意見や提案があった。

具体的には、鎌倉地域の漁業は、恒久的なインフラ整備が遅れていることから、これまでにも台風など自然災害による大きな被害が出ているばかりでなく、日常の漁業操業においても、鎌倉地域と同様の沿岸漁業を営む他地区に比べ、漁船の揚げ降ろし等を操業のたびに行わなくてはならない苦労もグループワークを通じて参加者に確認された。

そして、鎌倉地域の漁業が抱える課題は放置できるものではなく、何らかの対策は必要であるが、現時点での漁港建設のみにこだわらず、段階的に実行可能な対策を早急に講じていくことが提案された。

また、水産業振興として漁業者への支援策は、観光資産としての発展も期待されることから、今後も、水産業振興の議論を続けるべきであるとの意見も出された。

「ビジョンの明確化」では、市及び鎌倉漁業協同組合は、将来を見据えた水産業振興策を明確にするべきであるとの意見があった。

「市民が求める情報」は、漁港建設を議論するためには、環境アセスメントの実施、建設における費用対効果分析などより細かな資料の提示が必要であること、また「漁対協答申に対する代替案の検討」は、過去の議論や結論にとらわれず、広く

市民からの意見を聴取し、漁港施設のあるべき姿について比較検討を進めるべきであるとの意見があった。

また、平成 23 年度のワークショップでは、行政に対し、「市には、漁港建設の議論の前提となる水産業振興ビジョンがない」ことの問題提起があった。

このような様々な議論を経て、平成 23 年度のワークショップの成果をまとめる際に、鎌倉地域の漁港建設の問題や、現在の鎌倉地域の漁業が抱える課題や海浜利用について、市民、漁業者、海浜利用者がお互いに理解し合う話し合いの場として、更に、水産業振興が地域活性化に結び付く施策を議論する場として、ワークショップを平成 24 年度も継続して実施することが要望された。

2.2. 平成 24 年度ワークショップの開催経緯

2.2.1. 開催日等

平成 24 年度のワークショップの日程は、次のとおりである。

表 2.1 平成 24 年度ワークショップの開催日及び参加者数

回数	開催日	参加者数			傍聴者数 (参考)
		公募市民	関係団体	合計	
第 8 回	平成 24 年 6 月 30 日 (土)	13 名	8 名	21 名	15 名
第 9 回	平成 24 年 7 月 28 日 (土)	10 名	10 名	20 名	10 名
第 10 回	平成 24 年 8 月 25 日 (土)	10 名	8 名	18 名	19 名
第 11 回	平成 24 年 9 月 29 日 (土)	10 名	7 名	17 名	2 名
第 12 回	平成 24 年 10 月 13 日 (土)	10 名	7 名	17 名	9 名
第 13 回	平成 24 年 11 月 17 日 (土)	名	名	名	名

※ 開催時間は、第 11 回を除き、いずれも午前 10 時から正午まで。

第 11 回は、現地見学のため、午前 8 時 30 分から正午まで。会場は、鎌倉市役所第 3 分庁舎講堂。現地見学会時の意見交換会場は鎌倉漁業協同組合会議室。

2.2.2. 検討内容

平成 24 年度に行われた各ワークショップの主な議事は次のとおりである。

表 2.2 平成 24 年度ワークショップの主な議事

回数	各ワークショップの主な議事
第 8 回	・ワークショップ報告書について ・平成 24 年度の検討テーマと開催内容
第 9 回	・漁対協案と代替案の定性的比較 ・検討テーマについて
第 10 回	・鎌倉地域の漁業と漁港の将来ビジョン (漁業者からの話し)
第 11 回	・現地見学会：小坪漁港、坂ノ下地区
第 12 回	・ワークショップからのメッセージについて
第 13 回	・最終とりまとめ

2.3. 平成 24 年度開催概要

2.3.1. 第 8 回ワークショップ 平成 24 年 6 月 30 日（土）

平成 24 年 6 月 30 日に開催した平成 24 年度第 1 回目の会議である第 8 回のワークショップにおいて事務局からの今年度のワークショップの内容として、「現地踏査」を実施するとともに、現時点において「対策すべき課題の抽出」と「具体的な対策案（イメージ）」について検討していただきたいとの説明を行い、ファシリテーターから以下の提案があった。

1) 平成 23 度と同じ議論を繰り返さないよう運営方法を工夫してほしいという意見や、より漁業現場の状況に基づいた具体的な検討を進めてほしいという意見があった。したがって、漁業活動を維持し安全性を高めるための具体的方法を検討する。

2) 昨年度の代表的な論点を踏まえ、漁港建設について検討するグループ、既存の施設設備の機能の強化による漁業支援を考えるグループの 2 つに分けて、具体的な検討をする。

このファシリテーター提案に対し、様々な意見が出されたが、その中の一つとして平成 23 年度にワークショップから提案した鎌倉漁港対策協議会答申に対する代替案について検討を進める、代替案を基に複数の案を検討していくとの意見があり、掘込式、和賀江嶋、既存施設の機能・構造強化、他港への拠点移行の代替案に対する市の定性的な評価について比較一覧し、第 9 回ワークショップで説明を行うこととなった。

2.3.2. 第 9 回ワークショップ 平成 24 年 7 月 28 日（土）

第 9 回ワークショップでは、前回要望があった鎌倉漁港対策協議会答申の漁港案とワークショップの代替案の定性的な比較について事務局から説明を行った。ワークショップの代替案である掘込式、和賀江嶋、他港への拠点移行は実現性が低い、または困難という内容であり、参加者から「これまでの経緯という欄に前年度までのワークショップの成果を入れるべきではないか」、「漁港建設は当面無理であるという話が記載されていない」、「資料は平成 23 年度の参加者の意見がきちんと反映していない、行政が進めやすい内容となっているのではないか」などの意見があった。

その後、平成 24 年度のワークショップのテーマについて検討を行い、鎌倉地域の漁業と漁港の将来を考えるために、現地見学により必要な検討項目の把握や課題の整理、具体的な計画案や代替案の検討をしたい、などの希望が出されたが、具体的なテーマは決まらなかった。



大判図面をつなぎ合わせて鎌倉海岸全体を再現

参加者からは、検討テーマについて「昨年のワークショップの成果から考えると、鎌倉市水産業のビジョンについてまず整理すべきだろう」、そのためにも「水産業についてどのようなビジョンを持っているか、漁業者の方々の話が聞きたい」との意見が出され、次回のワークショップで漁業者からプレゼンテーションが行われることとなった。

また、新しい試みとして第9回ワークショップから、具体的な現地のイメージをつかんでもらうため、会議室の長机の上に鎌倉海岸全体を俯瞰できる大きな地図を用意し、参加者が地図を見ながら議論や作業が行える準備を行った。

2.3.3. 第10回ワークショップ 平成24年8月25日（土）

第10回ワークショップでは、漁業者から「鎌倉漁業協同組合の将来ビジョンについて」と題したプレゼンテーションが行われた。漁業協同組合内で合意されている事項ではないとした上で、「事業者が共同出資して会社を設立し、漁業者はその会社に収穫物を販売、事業会社の配当も得る仕組みを作るなど、広く市民の出資も募ることができる新たな事業形態の創出を検討していきたい」という趣旨の若手漁業者の思いが語られた。



鎌倉漁業協同組合の若手漁業者から話を聞く

その後の意見交換では、漁業者から提案された市民参加(出資)型の仕組み作りに対して多くの賛同や一緒に取り組みたいとの意見があった。

このプレゼンテーションを契機に、鎌倉地域の水産業の将来ビジョンに多くの関心が集まった。

2.3.4. 第11回ワークショップ 平成24年9月29日（土）

第11回ワークショップでは、漁労体験を含む現地踏査を逗子市の小坪漁港及び鎌倉海岸坂ノ下地区で行い、その後、意見交換を行った。

小坪漁港は、漁業規模が鎌倉地域と同程度で、漁港施設も斜路と防波堤を中心としているので、今後の検討の参考となった。現地では、これらの施設の使用目的や規模、構造あるいは必要性などについての解説と意見交換が行われた。



逗子市小坪漁港を見学

鎌倉海岸坂ノ下地区では、希望者による漁船の揚げ降ろしの漁労体験や浜小屋の見学を行った。

その後、意見交換では、多くの参加者から「現地見学をして良かった」との感想が聞かれた。

そして、平成 24 年度のワークショップの成果の取りまとめについて意見交換を行い、ワークショップではテーマを決めて議論するのではなく、行政や市民に向けたいくつかのメッセージを発信することとなり、残りのワークショップでメッセージの主題について議論していくこととなった。



鎌倉海岸坂ノ下地区で漁船の出漁を体験



浜小屋の内外を見学

2.3.5. 第 12 回ワークショップ 平成 24 年 10 月 13 日（土）

第 12 回ワークショップではメッセージの主題や発信先及びまとめ方について協議を行った。

メッセージはファシリテーターから 3 つの主題として「1. 鎌倉地域の漁業の将来ビジョン」、「2. 台風被害等、喫緊の課題に対する解決策」、「3. 行政に頼らない市民による水産業支援への取り組み」が提案された。その後、参加者全員が意見を述べ、概ねファシリテーターからの提案に賛同した。

また、メッセージの発信先は、第一義的には市であり、併せて鎌倉市民に向けたものになるのでは、という意見が出された。

2.3.6. 第 13 回ワークショップ 平成 24 年 11 月 17 日（土）

第 13 回ワークショップではメッセージを中心とした平成 24 年度の報告書のとりまとめを行った。

3. 鎌倉地域の漁業と漁港にかかるメッセージ

3.1 メッセージ

鎌倉地域の漁業は、自然環境を守りながら、国内有数の観光地における海岸利用と共存し、また、度重なる台風被害等にも耐えながら、現在も浜を利用した厳しい労働環境の中で操業を続けている。

漁業者は、今後も漁業を継続し、安全に操業するためには、漁港を建設することを望んでいる。

しかし、漁港の建設についての議論では、市民の中には、単に漁業者が厳しい労働環境を強いられていることのみをもって漁港建設を進めるべきではないとする意見もある。このため、前提となる鎌倉地域の水産業に関する将来ビジョンを明確にし、環境問題の解決や建設費用の確保、市民への利益還元などの議論を重ね、市民の理解を得ることが必要である。将来的に漁港が必要であることに理解を示している参加者も、その実現までには、このような課題を解決し、漁港建設について市民の理解を得る必要があるとしている。

本報告書では、ワークショップの中で参加者から提出された意見や要望をまとめ、行政や市民に対する「鎌倉地域の漁業と漁港にかかるワークショップからのメッセージ」として発信するものである。

このメッセージは、ワークショップの参加者が1年2か月に及ぶ議論の成果として、概ね合意できる意見をまとめたものである。

このメッセージにより、多くの市民に鎌倉地域の漁業と漁港に関する議論に関心を持っていただきたい。鎌倉の海を守ってきた漁業を今後どのように継続していくのか、今後の鎌倉の水産業はどうあるべきか、このワークショップに参加しなかった方にも考えていただきたいとの思いを込め発信するものである。

1) 鎌倉地域の水産業の将来ビジョンを考えよう。鎌倉市の水産業のビジョンは、市民の食卓に地場の新鮮で安全な魚介類が届く流通システムの構築である。更に漁業が観光資源の一つとなり得ることをも念頭に構築することが重要である。

鎌倉の海岸で水揚げされる水産物は、流通の課題により漁業者が加工するシラスやワカメなどを除き、市民が入手しにくい状況がある。鎌倉の水産物は、まだまだ「鎌倉やさい」のように鎌倉ブランドとして知名度が高いとは言えない。

また、鎌倉漁業協同組合が月1回開催する朝市や早朝の浜売りなどの機会を除けば、市民が直接購入できる店舗も少なく、地元水産物が鎌倉市民の食卓にのぼる機会が多いとは言えない。

漁業者が漁業を誇りに思い、鎌倉市民が鎌倉の水産物を愛し、市外の消費者が鎌倉を訪れて水産物を買求めるような状況が生まれれば、鎌倉の水産物の持つブランド力を生かした特長ある漁業の展開も可能となると考える。

第10回ワークショップにおける若手漁業者のプレゼンテーション「鎌倉の漁業の将来と未来」からもこのような若手漁業者の意気込みが伝わってきた。

地先に沿岸漁業を持つことの意義やその可能性について、多角的に、また、多くの主体となり得る関係者を巻き込んで議論していくことが大変重要である。水産業を6次産業化としてとらえ、地産地消など様々な立場や視点から考えていく必要がある。

一方、鎌倉の海岸というフィールドで見れば、そこは、漁業者の就労の場であるとともに、散歩、海水浴、サーフィン、ウインドサーフィンなど鎌倉市内の人々の憩いの場となっている。今日、多様な主体が共存し得ている状況を大切にしながら、事故を防ぎ、利用者相互の信頼関係をいっそう深めることも重要である。

2) 台風被害など鎌倉の漁業者が抱えている喫緊の課題について、行政が早急に具体的な対策を実施することが必要である。

ワークショップにおける意見交換や現地見学を通じて、漁業者が台風時の高潮に苦勞していることが漁業者以外の参加者にも理解された。浜小屋は浜を利用した伝統的漁業形態の名残をとどめる漁具の保管や収穫物の荷捌き等に使われる施設であるが、現行法令上では、これを耐久性のある永久構造物として建造することが認められていない。

このような状況から、台風などによる高潮によってたびたび浜小屋が破損するとともに、漁船や漁具にも被害が生じており、そのたびに自らの責任で修復せざるを得ない状態である。こうした出費が自助努力による漁業展開を圧迫していることは否定できない。更には、仮設での建築しか認められない浜小屋は、鎌倉の良好な海岸景観の維持という面でも課題がある。

また、高潮時に漁船の流失を避けるためには、比較的大型のものは近隣の漁港やマリナーに要請して一時避難をし、小型のものは各所有者が避難場所を確保しなければならない苦勞がある。

鎌倉海岸の砂は通常は一定の量を保っているが、波浪が激しい時には大きく侵食される。海岸管理者である県は大型土嚢を積んで応急的に侵食を抑制し、流出した砂を補填しているが、侵食を受けた状態では浜からの出漁が通常以上に困難となり、台風後の漁業再開がしばらくの間できないということもある。

鎌倉地域の漁業を安全で安定的に継続していくためには、行政は具体的な対策を講じ、漁業者の負担を軽減する必要がある。なお、漁業者のこれらの苦勞は、ワークショップに参加した人々など、限られた市民にしか知られていない。単に知らせるだけでなく、市民に共感を持って受け止められるためには、鎌倉地域の水産業の将来ビジョンの構築が大きな意味を持つことになる。

3) 鎌倉の漁業、漁港建設のあり方については、このワークショップを契機に、市民が自ら話し合いを企画し、あるいは課題を多角的にとらえる研究会を開催し、結果を行政に提起していくべきである。

ワークショップでとりまとめた意見や要望は、報告書としてとりまとめ市へ提出するとともに、市民に向けても情報発信を行っていくものである。

ワークショップは 13 回にわたり開催し、協議を重ねてきたが、参加者により関心のあるテーマは異なり、どこまで議論が尽くされたかは参加者によりその受け止め方は異なっている。

このワークショップ自体は市の主催で行われたが、鎌倉地域の漁港そのもののあり方について、本ワークショップ終了後も継続して考えていきたいという参加者もいた。

漁港建設の課題解決を市にだけ求めるのではなく、このワークショップを契機に、ワークショップ参加者または市民自らが、市民主体のワークショップや研究会を開催するなどして、市に提案を行っていく姿勢が我々市民にも必要であり、実行していくべきである。

4. 平成 24 年度ワークショップで出された主な意見・要望

ワークショップは、参加者がそれぞれの立場で意見を交換し、情報を共有することにより、合意形成を図る場であり、何らかの結論を求めるための賛否を問う場ではない。提出された一つひとつの意見を課題の解決に向けた各参加者からの意見として捉えている。

こうした観点から、各ワークショップで提出された主な意見や要望を項目別にまとめる。

4.1. 鎌倉地域の漁業と漁港の将来ビジョンについての意見

ワークショップからのメッセージの 1 番目は「鎌倉地域の水産業の将来ビジョンを考えよう。鎌倉市の水産業のビジョンは、市民の食卓に地場の新鮮で安全な魚介類が届く流通システムの構築である。更に漁業が観光資源の一つとなり得ることをも念頭に構築することが重要である。」とした。

参加者からは、検討テーマについて「平成 23 年度のワークショップの成果から考えると、鎌倉市水産業のビジョンについてまず整理すべきだろう」との意見があり、第 10 回ワークショップでは、若手漁業者が中心となり「鎌倉漁業協同組合の将来ビジョンについて」と題したプレゼンテーションを行い、これに対して各参加者から、鎌倉地域の水産業の将来ビジョンに対する多くの意見が提出された。

【漁業と漁港の将来ビジョンに対する具体的意見】

- 平成 23 年度のワークショップの成果から考えると、鎌倉市の水産業のビジョンについてまず整理する必要がある。
- 鎌倉の漁業者による「鎌倉市民への水産物供給」を実現し、漁業を鎌倉地域の産業の柱の一つとする。
- 水産業についてどのような将来ビジョンを持っているか、鎌倉地域の漁業者の話が聞きたい。
- 鎌倉地域の若手漁業者から提案のあった「鎌倉の漁業及び水産業の未来」(若手漁業者の想い)の漁獲、加工、販売が一体となる事業体の立ち上げでは、障がい者や地域での雇用が期待できる。
- 鎌倉地域の漁港建設の問題については、その必要性について、市として市民を含めた議論を行い、漁港建設を含めた水産業のビジョンを明らかにしていく必要がある。
- 鎌倉市が鎌倉海岸を活用した漁業や観光など産業振興について総合的に考えていくべきである。
- 報告書には、水産業に対する将来ビジョンを示すだけでなく、鎌倉地域の漁業の現状も説明した方がいい。

【ビジョンの実現に向けた具体的意見】

- 水産業のビジョンは鎌倉地域の漁業だけではなく、産業振興、特に、第1次産業の6次産業化などにも目を向け、漁業者、市民、市民団体などによる新たな事業体を立ち上げ、皆で収益をあげることを考えていく。
- 漁業者が提案する漁業者、市民、市民団体などによる生産、加工、販売システムを構築する新しい事業体の話を進めていきたい。
- 漁港建設については、行政に頼るだけでなく、民間の力を使うように動かないと決して実現はしない。
- 民間事業者による企画提案型の事業が漁港建設にも取り入れられるか、その可能性を考慮し、鎌倉地域の漁港建設に対する提案募集を検討したい。

【漁業や漁港に対する意見】

- ワークショップとして、鎌倉にふさわしい漁港や理想とする浜の使い方について意見を整理しておく必要がある。
- 将来、市が漁港建設を行う決定をする場合、何を持って市民の合意形成が得られたかの指標を考えておくべきである。例えば市民の合意形成を図る尺度として、浜売りの来場者数、漁業体験の参加者数のように数値で示せる指標を設定するべきである。
- 鎌倉の漁業は歴史がある、その漁業をこれからどう残すのかを考えるべきである。
- 鎌倉地域の海岸では、漁業者とヨットやサーフィン、ウインドサーフィンなどの海洋レクリエーション利用者とが同じフィールドを共存しながら利用するいい関係が構築されている。

4.2 台風被害など、喫緊の課題に対する意見

ワークショップからのメッセージの2番目は「台風被害など鎌倉の漁業者が抱えている喫緊の課題について、行政が早急に具体的な対策を実施することが必要である。」とした。

ワークショップでの意見交換や現地見学を通じて、漁業者が台風時の高潮に苦勞していることについて、漁業者以外の参加者の理解が深まった。

【台風被害などに対する意見】

- ワークショップでは、秋の台風シーズンに向け、災害対策の解決策を論議すべきである。
- 市は台風時の砂浜侵食や船の避難などの対策について、県などの関係機関に働きかけ早急に対策すべきである。
- 鎌倉地域の漁業を継続していくためには、漁業操業の安心・安全を確保する施策が第一である。
- 漁業者は、台風で浜小屋が道路に打ち上げられてしまう事態が起こらないかと心

配している。

【災害対策の具体的意見】

- 浜にコンクリートで半地下式の漁船やサーフボード等が収容できる施設を造って、漁業者とヨットやサーフィン、ウインドサーフィンなどの海洋レクリエーション利用者とが共同利用できるといい。ふれあいの場にもなる。
- 漁業者の浜小屋を、台風時でも被害を受けない安全な施設に改善すべきである。

4.3 ワークショップのまとめ（メッセージ）について

「鎌倉地域の漁業と漁港に係るワークショップ」は、全 13 回に及ぶ議論の成果をメッセージとして発信する。

第 12 回ワークショップにおいて、メッセージの主題や発信先について協議を行った。

【メッセージの主題について】

- ワークショップからのメッセージはファシリテーターから提案された 3 つの主題「1. 鎌倉地域の漁業の将来ビジョン」、「2. 台風被害等、喫緊の課題に対する解決策」、「3. 行政に頼らない市民による水産業支援への取り組み」（以下「3 つの主題」という。）で良いのではないかと。
- ワークショップからのメッセージとしては、ファシリテーターから挙げられた 3 つの主題でいい。漁港が建設されない場合のデメリットも報告書には載せて貰いたい。
- ワークショップからのメッセージはファシリテーターからの 3 つの主題でいいと思う。特に「1. 鎌倉地域の漁業の将来ビジョン」が重要である。なぜ漁港建設が今できないかのワークショップとしての結論は平成 23 年度の報告書に出ているため、漁港建設に向けて課題をクリアする条件は何かについて議論すべきである。
- ファシリテーターから提案のあったメッセージの 3 つの主題では、それぞれ対象とする取り組み範囲が異なり、メッセージの「2. 台風被害等、喫緊の課題に対する解決策」、「3. 行政に頼らない市民による水産業支援への取り組み」は「1. 鎌倉地域の漁業の将来ビジョン」という大きなテーマの下に位置するものだと思う。
- 鎌倉地域の若手漁業者が発表した「鎌倉の漁業及び水産業の未来(若手漁業者の想い)」で語られた将来ビジョンの「事業者が共同出資して会社を設立し、漁業者はその会社に収穫物を販売し、事業会社の配当も得る仕組みを作るなど、広く市民の出資も募ることができる新たな事業形態の検討」に賛成である。報告書にも並行して明記すべきである。新たな事業体の立ち上げには、そのための多目的な施設が必要である。
- 市全体で考えると、漁業には長い歴史があり、鎌倉の食文化を形成しているという点で大事な産業である。

【メッセージへの漁港の記載について】

- 報告書では、漁港建設に反対であるということを市民の声として印象深く訴えるものとした。一方で、造って欲しいという参加者の声も明記すべきである。
- 漁港建設による平塚海岸等の海岸侵食の例もあり、鎌倉地域の漁港計画をいきなり見せられると反発する。
- このワークショップは、漁港に関するワークショップなのに、ワークショップからのメッセージの主題に漁港というキーワードがないのは問題で、項目として「漁港」に対する何らかの記載が必要である。
- 当初は鎌倉地域の漁港建設に反対であったが、今は漁港は建設した方がいいと考えている。市民や海浜利用者が漁業者用の浜小屋を共有できるといいと思う。
- ワークショップの1年目の平成23年度は、意見の異なる参加者同士の協議で話がなかなか進まず、漁港建設が前提としてあるべきではないという結果が成果（主な意見）の一つとして挙げられた。平成24年度の報告書で漁港建設に触れるなら、建設の条件をはっきりさせ、専門家と市民を交えた環境面に対する影響の検討が必要である。
- 第11回ワークショップの現地見学のように海が風るときばかりではなく、漁港がないために沖での水揚作業の動力化もできず、また、台風が来襲するたびに砂が沖に流出する状況が続く中、鎌倉地域には漁港が必要であるということを市民にも理解していただきたい。一方で現状の漁業活動を維持していくための台風時等の早急な安全対応が必要である。
- 毎年、台風で砂が沖へ流出するたびにお金をかけて鎌倉海岸に砂を繰り返し投入して砂浜を維持するよりも、漁港を建設した方がいいと思う。
- 漁業者としては、船を安全に出し入れできる環境で安心して安全に仕事がしたい。
- 平成23年度のワークショップの議論は、当初は漁港建設に関するものであったが、しだいに水産業振興や漁業者への支援などの議論へ替わっていった。ワークショップからのメッセージには漁港という言葉を入れてほしい。
- 鎌倉地域の漁港建設は、たとえ埋め立て式でない、陸地側への掘り込み式であろうと、建設費に対する税負担の点から反対である。坂ノ下地区の再開発に関しては漁港と切り離して考えるべきである。
- 鎌倉地域の水産業のビジョンをつきつめていけば、またその中で鎌倉地域の漁港建設に関する話ができる。
- 鎌倉地域の漁港について話し合うために集まったワークショップである。漁港という言葉がワークショップからのメッセージのタイトルから抜けるのは違和感がある。

【まとめ方について】

- 参加者の問題に対する理解の度合い、参加の度合いが異なるためワークショップでは様々な意見が出るものである。このワークショップは結論を出す場ではなく、

また、参加者も市民を代表している訳ではない。報告書では参加者から出された様々な意見を列記すればいい。

- 平成 23 年度のワークショップの成果と平成 24 年度の報告書を切り離さないのであれば、報告書のとりまとめは事務局で行うことでいい。漁港建設に賛成、反対の理由を掘り下げられるといい。
- 報告書に漁港建設に賛成・反対を明記するという話があったが、未来永劫に不要という人はワークショップメンバーの中にはいないだろう。メンバーで対立があったようにまとめるのは避けた方がいい。
- 子供たちに「残すべきもの／残してはならないもの」の視点で報告内容を整理するとよいと考える。
 - ・ [残すべきもの] ①できるかぎり自然な海の姿、②豊かな食文化（地産地消の有難さ、漁の大変さ、後継者問題等への理解を含む）
 - ・ [残してはならないもの] ①開発による再生不能な自然環境、②税金の増加などの負債

4.4 漁港についての意見

漁業者は、漁業を将来にわたり継続し、安全に操業するためにも、将来的には鎌倉地域に漁港を建設することを要望している。

しかし、漁港建設には市民への利益還元の軽重、環境問題そして財政負担など様々な課題がある。ワークショップの参加者は、将来的には漁港が必要であることに理解を示している人もいるが、その実現までには、前述の様々な課題を解決し、市民の理解を得る必要があるとしている。

【漁港の建設について】

(肯定的意見)

- 鎌倉地域の漁業の安全操業のためには、将来的には漁港建設は必要である。
- 逗子市の小坪漁港程度の規模の漁港ならば建設してもいいのではないか。
- 鎌倉市は、鎌倉市都市マスタープラン増補版の中に「(仮称) 鎌倉漁港の整備について検討します」と明記されているので、このワークショップの中で漁港建設を否定するものではない。

(否定的意見)

- 漁港建設に 5 年から 10 年かかり、その間の台風時に対する災害支援策が有効に機能して被害が抑えられるなら、そもそも漁港建設に関する検討をする必要があるのか疑問である。
- 市民の立場として、漁港建設に対する鎌倉市の税金の使途が適切かという視点で考えている。
- 湘南地域の他の漁港のように、いったん埋め立てをして漁港を建設したら海の自然

は元に戻らない。埋め立て区域が拡大し、海の自然環境が悪化することを懸念している。

- 漁港の建設をするには時期が悪い。東北地方の各漁港が東日本大震災で甚大な被害を受けて間もない状況の時に、鎌倉市に2つ目の、新たな漁港建設の基本構想・計画を国にあげるといことは、鎌倉市として恥ずかしい行為だと思う。
- 一つの市の中に2つの漁港は必要ない。
- 漁港の建設は環境への影響の問題が大きいため、鎌倉海岸に構造物を造るのはよくない、従前の箱物行政による漁港建設には反対する。
- 整備について検討することが明記されている都市マスタープラン増補版こそ、現状に鑑みて漁港建設について見直すべきではないか。

(条件付き意見)

- 鎌倉地域の漁業者の漁業活動の現状やこれからの水産業を含む産業振興の観点から漁港建設を考えるべきである。
- 漁港が漁業者とヨットやサーフィン、ウインドサーフィンなどの海洋レクリエーション利用者、市民と一緒に使えるなら建設してもいい。
- 漁港が整備され、鎌倉海岸の浜小屋が整理されれば海岸線がきれいになり、それが観光の一つの目玉になったらいい。
- 和賀江嶋を鎌倉海岸の別の場所も視野に入れ、「現代の和賀江嶋」として復活させてはどうか。

(その他意見)

- 鎌倉地域の漁業者は腰越や小坪の漁業者と共同して新しい漁業体系を作っていくべきである。漁業について詳しく理解している市民の意見ではないが、そのような意見があることは知ってもらいたい。
- 報告書には鎌倉地域に漁港を造らなかった場合のデメリットを例示しても記すべきである。
- 鎌倉地域の漁港建設に反対する人の本音があれば知りたい。

4.5 鎌倉漁港対策協議会答申に対する代替案についての意見

平成23年度にワークショップから提案した鎌倉漁港対策協議会答申に対する代替案を基に検討していくとの意見があり、事務局から掘込式、和賀江嶋の利用、既存施設の機能・構造強化、他港への拠点移行などの代替案に対する市の定性的な見解について第9回ワークショップで説明を行った。しかし代替案の検討については今ワークショップでは検討テーマとはならなかった。

【代替案について】

- 平成23年度の報告書で示している鎌倉漁港対策協議会答申に対する「代替案」の

検討を進めてはどうか。

- 平成 23 年度のワークショップで提出された鎌倉漁港対策協議会答申に対する「代替案」を基に、複数の案を同時並行的に検討していく。
- 鎌倉漁港対策協議会答申の漁港案は、位置的に、防災上や、漁業をする上でも課題があるのではないかな。
- 鎌倉市漁港対策協議会答申の漁港案についてワークショップとしてどう評価するか、報告書に意見を記載する方がいい。
- 代替案に対する市の定性的な比較一覧の資料について
「平成 23 年度のワークショップの成果を入れるべきではないか」
「漁港建設は当面無理であるという話が記載されていない」
「資料は平成 23 年度の参加者の意見がきちんと反映していない、行政が進めやすい内容となっているのではないかな」など。

4.6 ワークショップの進め方についての意見

平成 24 年度のワークショップの実施にあたり、検討テーマや検討方法について協議を行った。

【テーマについて】

- このワークショップでは、鎌倉地域の漁港建設について、承認できない内容を決めていきたい。
- ワークショップでは漁港の具体的な建設について検討をしていきたい。
- 今ある漁港案は鎌倉漁港対策協議会答申ということなので、ワークショップではそれ以外の案を検討すべきではないかな。
- ワークショップでは、鎌倉地域の漁港建設の是非を判断するのではなく、鎌倉の水産業のビジョンの検討から行いたい。

【グループ討議について】

- 全体協議では議論がなかなか進まないため、グループに分かれて検討すべきである。
- テーマごとにグループを固定すると同じ思想の人が集まってグループワークをすることになり、意味がないので、全体で検討を行うべきである。
- テーマを決めて、そこから外れないように全体で検討する方が、効率化という点ではグループに分けるより有効ではないかな。
- このワークショップとは別の会を市民参加の基に立ち上げて検討した方がいい。

4.7 解決・対応してほしいこと

参加者から、平成 23 年度に引き続き、協議の前提としての調査・分析や、行政が対応すべき課題についての意見・要望があった。

【対応すべき課題】

- 行政側で漁港建設に対する費用対効果分析を実施し、その検討結果を示した上で議論を行う。
- 行政は漁港建設に対する環境アセスメントを定性的評価ではなく、事業が始まる前に定量的に評価行ってほしい。
- 台風の花が国道 134 号線にあがらないように、鎌倉海岸の浜小屋を整備する。
- 鎌倉海岸に防波堤を造り、浜小屋を集約して、海岸線の見栄えを良くした方が良い。
- 漁港だけではなく、坂ノ下地区の再開発を念頭においた、50 年後 100 年後を見据えた計画にすべきである。
- 鎌倉地域の漁港建設は 60 年前から話されているが、現在では社会状況が変わり環境や財政問題等があり、市民感情として従前の行政計画のまま進めることは認められない。行政計画の見直しが必要である。
- なぜ、鎌倉地域の漁港建設が 60 年間も放置されたのか。それ自体が問題である。

5. おわりに

「鎌倉地域の漁業と漁港に係るワークショップ」は、公募市民と漁業協同組合、マリンスポーツ関係団体、周辺自治会等の関係団体で構成し、鎌倉地域の漁業と漁港について様々な観点から論議を行い、その成果として行政、市民に向けメッセージを発信することとなった。

今までに漁港の建設については、3次にわたる鎌倉漁港対策協議会での検討はあったが、直接市民の意見を聴くために開催された会議は、本ワークショップがはじめてである。

平成23年度から平成24年度にかけて13回行ったワークショップにおいて、参加者から様々な意見や提案が提出された。これらの意見や提案をより多くの市民に知っていただき、鎌倉地域の漁業と漁港について考えてほしいとの思いから、我々の検討の成果をメッセージに込めて発信することとしたものである。

鎌倉地域の海では、古くから漁業が営まれ、守り続けられている。そして、鎌倉地域の漁業は一般の海浜利用や当地で盛んに行われているヨット、サーフィン、ウインドサーフィンなどの海洋レクリエーション利用とも相互に理解し共存を図り良好な関係が保たれている。

しかし、漁港の建設にあたっては、海岸利用はもちろん、そのほかにも解決しなくてはならない様々な課題があることがワークショップの議論の中で確認されたが、漁港建設における市民による合意形成もその一つである。

我々が発信するこのメッセージが鎌倉地域の漁業と漁港についての議論を高めるきっかけとなることを期待する。

そして何より、鎌倉の海がより良い形で次世代に引き継がれていくことが我々の願いである。

資料：事前に寄せられたご意見

【ご意見1】

このメールでは（素案）のなかでいくつか修正していただきたいことを記載します。太赤字部分。

- ① P7 L8 ～市民の中には、**国民の税金の使い道としては**単に漁業者が厳しい労働環境を強いられていることのみをもって**鎌倉**漁港建設を進めるべきではないとする～
- ② P15 L1 ～海其自然環境が悪化、**また、水難事故誘発になる**ことを懸念している。
- ③ P17 《追加》●**専門家が海中や潮流の調査をするのなら風の日ばかりでなく荒天時も調査すべきである。**
- ④ P18 L18 ～ワークショップの議論の中で確認された。漁港建設における市民による合意形成もその一つである。
が、というのを。**に**変えていただきたくよろしくお願いします。

【ご意見2】

報告書（素案）について、訂正・追加等お願い致します。

p2（中段）

また「漁港建設の課題」、「水産業振興支援の必要性」においては・・・「鎌倉地域の漁業の就労環境は厳しく」の後に→「環境に対しての配慮」

p11<漁業や漁港に対する意見>

漁対協案であげられている現在の候補地については、他港の事例から見ても鎌倉湾内の海水浴場や海レク活動エリアにも、侵食・堆積・潮流の変化・・・などによる環境被害が及ぶ可能性が高い為、反対である。

p12・15

浜にコンクリートで&一緒に使うなら建設してもいい・・・の意見に、ウインドサーフィンを外してください。

ウインドサーファーは承認していない。海の安全管理の面から言っても、この案には反対しています。

地元のサーフショップも、素案の文面だと、今後、「最初反対したけど、取引して漁港建設に合意した様な誤解を招く」のでやめてほしいそうです。

p13<メッセージ>

- ・海では何かを守ろうとして構造物を入れると、局所的には守られても、周辺には被害が起きて、構造物が拡大していく（景観破壊の連鎖）という事例が沢山出ている。
今後何か対策をするのならば、鎌倉湾内は、後で後悔しない様に多角的に、将来の海を過去の事例からもちゃんと学んで考えてもらいたい。

- ・現在の坂ノ下の侵食は、稲村側の駐車場建設&テトラを入れてしまった所から始まった。
海に出っ張る漁港などを建設したら、現在まだ被害が最小限に抑えられている所へも侵食被害が拡大するので漁対協案は反対。
漁業者の安全対策は、海の環境にも十分配慮して行ってもらいたい。

p17<対応すべき課題>

- ・鎌倉地域の漁港建設=60年 というのは、正しい数字ですか？議員もよく「60年の悲願」といいますが、初めは堤防で、港自体は空期間もあるとなると???といつも思います。
おおげさに聞こえるので、改めてもらいたい。
- ・海、とくにポケットビーチと呼ばれる所は微妙なバランスで海や海岸環境が保たれているため、何かを計画するには十分配慮が必要である。
- ・いろいろな主体性が共存している湾内では、計画から十分な周知・配慮が必要。

※本表は事前に寄せられたご意見をページ順に整理したものです。

頁	ご意見
2	(中段) また「漁港建設の課題」、「水産業振興支援の必要性」においては・・・「鎌倉地域の漁業の就労環境は厳しく」の後に→「環境に対しての配慮」
7, 8	～市民の中には、 国民の税金の使い道としては 単に漁業者が厳しい労働環境を強いられていることのみをもって 鎌倉 漁港建設を進めるべきではないとする～
11	<漁業や漁港に対する意見> 漁対協案であげられている現在の候補地については、他港の事例から見ても鎌倉湾内の海水浴場や海レク活動エリアにも、侵食・堆積・潮流の変化・・・などによる環境被害が及ぶ可能性が高い為、反対である。
13	<メッセージ> ・海では何かを守ろうとして構造物を入れると、局所的には守られても、周辺には被害が起きて、構造物が拡大していく（景観破壊の連鎖）という事例が沢山出ている。 今後何か対策をするのならば、鎌倉湾内は、後で後悔しない様に多角的に、将来の海を過去の事例からもちゃんと学んで考えてもらいたい。 ・現在の坂ノ下の侵食は、稲村側の駐車場建設&テトラを入れてしまった所から始まった。 海に出っ張る漁港などを建設したら、現在まだ被害が最小限に抑えられている所へも侵食被害が拡大するので漁対協案は反対。 漁業者の安全対策は、海の環境にも十分配慮して行ってもらいたい。
12, 15	浜にコンクリートで&一緒に使うなら建設してもいい・・・の意見に、ウインドサーフィン は外してください。 ウインドサーファーは承認していない。海の安全管理の面から言っても、この案には反対しています。 地元のサーフショップも、素案の文面だと、今後、「最初反対したけど、取引して漁港建設に合意した様な誤解を招く」のでやめてほしいそうです。
15	L1 ～海の自然環境が悪化、また、 水難事故誘発になる ことを懸念している。
17	《追加》 ●専門家が海中や潮流の調査をするのなら風の日ばかりでなく荒天時も調査すべきである。
17	<対応すべき課題> ・鎌倉地域の漁港建設＝60年 というのは、正しい数字ですか？議員もよく「60年の悲願」といいますが、初めは堤防で、港自体は空期間もあるとなると？？？といつも思います。 おおげさに聞こえるので、改めてもらいたい。 ・海、とくにポケットビーチと呼ばれる所は微妙なバランスで海や海岸環境が保たれているため、何かを計画するには十分配慮が必要である。 ・いろいろな主体性が共存している湾内では、計画から十分な周知・配慮が必要。
18	L18 ～ワークショップの議論の中で確認された。漁港建設における市民による合意形成もその一つである。 が、 というのを。 。 に変えていただきたい。